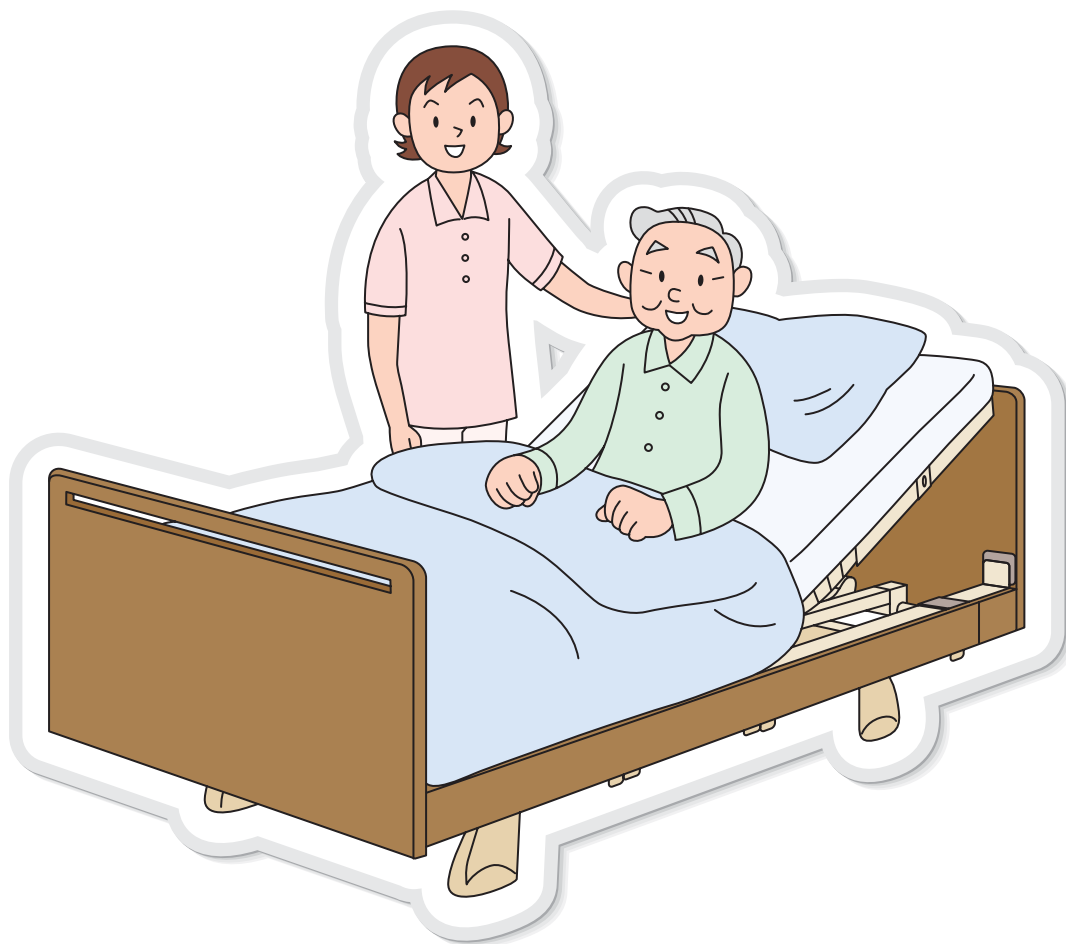


在宅介護における

電動介護ベッドハンドブック

初めて電動介護ベッドを使うかたへ

電動介護ベッドの安全な使い方



発行
医療・介護ベッド安全普及協議会

発行にあたって

このたび「医療・介護ベッド安全普及協議会」では、在宅で電動介護ベッドをより安全にご使用いただくため、『在宅介護における電動介護ベッドハンドブック』を発刊いたしました。本ハンドブックは、電動介護ベッドを在宅で使用するにあたり、利用者の身体の状態に応じた上手な使い方と、動作シーンごとの安全な使用方法や注意事項を中心にまとめてあります。初めて電動介護ベッドをご使用になる方にも配慮し、イラストを多用して出きるだけ分かりやすいものになるよう工夫いたしました。

医療・介護ベッドは、医療機関や高齢者施設で必需品として使われているだけでなく、平成12年に介護保険制度が導入されたのを機に在宅(家庭)における利用者も年々増加しています。しかし昨今、転倒・転落などベッドに関連する様々な事故の発生が報告され、ベッドの安全性向上が重要な課題と認識されるようになりました。

このような状況を踏まえ、ベッドの安全な使用環境の構築をはかることを目的として、平成14年12月に医療・介護ベッドの製造に携わる4社が発起人となり「医療・介護ベッド安全普及協議会」を設立し活動をつづけてきたところです。その活動の成果のひとつとして、平成15年8月には『医療・高齢者施設におけるベッドの安全使用マニュアル』を発刊し全国の施設に無料で配布し、ご評価をいただきました。

在宅で電動介護ベッドをご使用になる際は、必ず納入事業者から使用説明をお受けになるとともに、取扱説明書をよくお読みになっていただきたいと思います。併せて使用目的にそって安全で上手にお使いいただくため、本ハンドブックをぜひご活用いただきたいと考えております。

本ハンドブックが療養環境の安全性向上に役立つことを願っております。

平成18年2月20日
医療・介護ベッド安全普及協議会
会長 木村 憲司

目

次

初めて電動介護ベッドを使う方へ

電動介護ベッドができること	3～4
電動介護ベッドの良い点	5
快適な介護環境は、お部屋づくりから始まります	6

電動介護ベッドの上手な使い方

1 歩行不安がある方の場合

起き上がり	7
端座位	8
介助バーのご利用について	8
立ち上がり	9
歩行不安がある方の場合での一般ベッドと電動介護ベッドの比較	10

2 動作支援が必要な方の場合

寝返り	11
起き上がり	12
端座位	13
立ち上がり	14
移乗	15～16
動作支援が必要な方の場合での一般ベッドと電動介護ベッドの比較	17

医療・介護ベッド安全普及協議会から	18
-------------------	----

3 寝たきりの方の場合

寝返り	19
起き上がり	20
寝たきりの方の場合での一般ベッドと電動介護ベッドの比較	21

補助用具の上手な使い方	22
-------------	----

電動介護ベッドを安全にご使用いただくために！

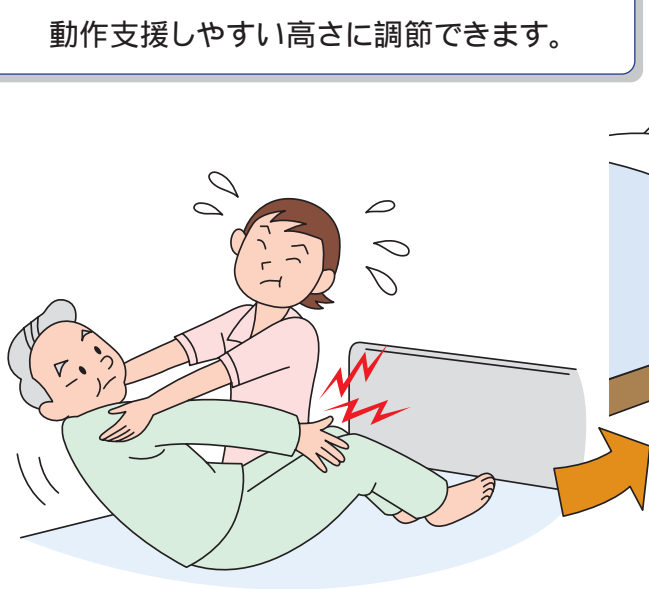
電動介護ベッドの安全なご使用方法	24～25
製品安全についての注意事項	26
サイドレール等についての注意事項	27～28
シーン 1 設置	29
シーン 2 物を取る	30
シーン 3 食事	31
シーン 4 乗り降り	32
シーン 5 移乗	33
シーン 6 お子さまに気をつけて	34
シーン 7 体位変換・オムツ交換	35
シーン 8 整理・整頓	36
シーン 9 電子機器の使用	37

医療・介護ベッド安全普及協議会について	38
---------------------	----

電動介護ベッドができること。

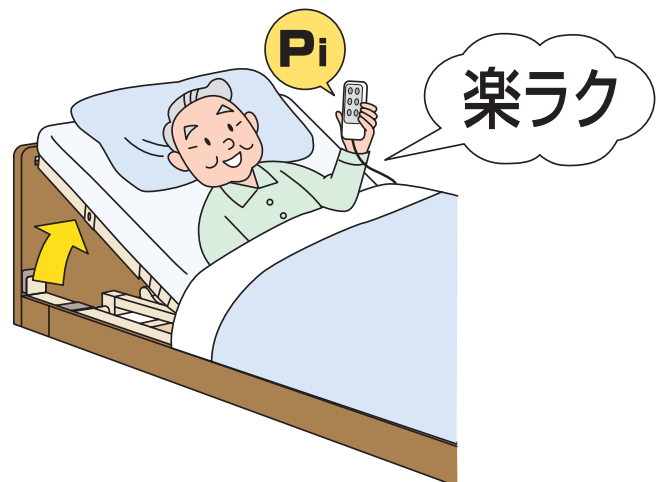
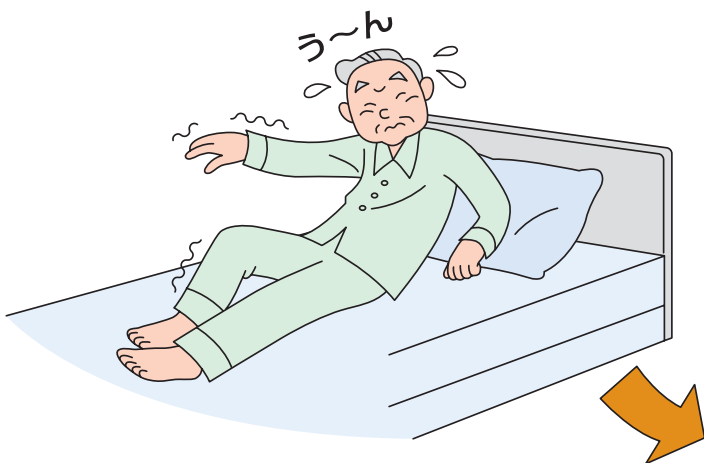
介護をする方の負担を軽減します

ベッドの高さが調節できるので、例えば、介護を受ける方がベッドから移乗するときに、動作支援しやすい高さに調節できます。



介護を受ける方の負担を軽減します

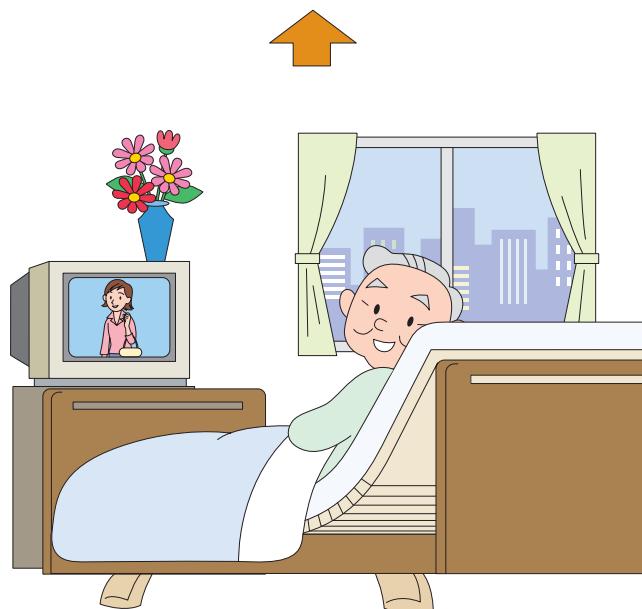
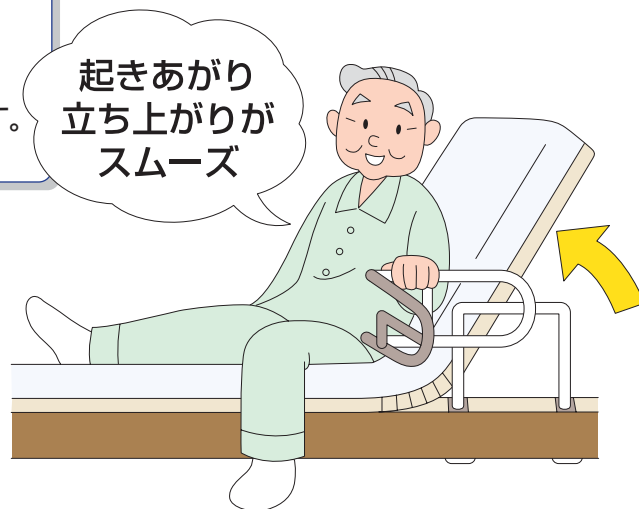
ベッドに組み込まれた電動式の背上げ機能、膝上げ機能、高さ調節機能が、起き上がりや立ち上がりなどの負担を軽減します。



介護を受ける方の自立を促進します

起き上がりや立ち上がりなどの動作をサポートすることにより、介護を受ける方の自立を促進します。

起き上がり
立ち上がりが
スムーズ



介護サービスを、より効果的に。

ベッド自体が動作を補助するように設計されていますので、ホームヘルパーなどによる介護サービスが、より効果的に行えます。

ベッドとしての快適性の向上。

当協会に加盟しているメーカーから供給されている電動介護ベッドや用品はマットレス一枚から、各部の機能に至るまで、病院で培ったノウハウが活かされています。

製品安全について

当協会では製品の安全性向上を第一に考え活動しております。当協会に加盟しているメーカーから供給されている電動介護ベッドや用品は安全性向上のため製品改良を施しております。

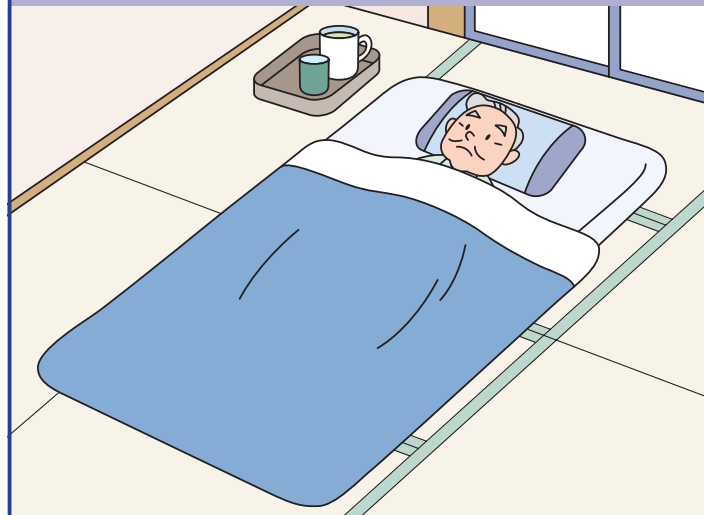
電動介護ベッドの良い点

電動介護ベッドは、機能面でも衛生面でも、「ともに生きる明日」を快適・便利に励ましてくれる、「介護生活のよきパートナー」としての側面を備えています。将来のことや介護をする方の負担も考えて、介護を受ける側にも介護をする側にも快適な電動介護ベッドの選択をおすすめします。

このハンドブックでいう一般ベッドとは、一般に家庭用として販売されている、木製あるいはスチール製のものを総称しています。また、フットボードがないベッドや、ベッドに取り付けできるサイドレールや手すり及び背上げ機能のないものを想定しています。

布団の場合

介護を受ける方も、する方も負担がとても大きい



メリット

- ・手軽で安価です

デメリット

- ・床に近いのでホコリっぽくなる
- ・布団の上げ下ろしがたいへん
- ・起き上がりや立ち上がりにたいへん不便
- ・視点が低く、対話しづらい
- ・介護を受ける方の視野が狭い
- ・つかまるものがない
- ・寝かせっきりになりがち

一般ベッドの場合

介護を受ける方も、する方も負担が大きい



メリット

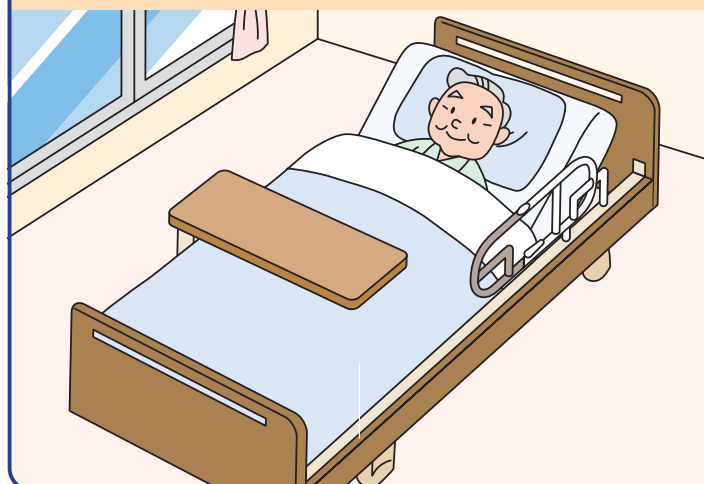
- ・手軽に入手可能
- ・布団の上げ下ろしの必要がない

デメリット

- ・起き上がりに不便
- ・立ち上がりにやや不便
- ・つかまりにくい
- ・ベッドからの転倒や、転落に対し考慮されてない場合が多い

介護ベッドの場合

介護を受ける方と、する方の負担が小さい



メリット

- ・布団の上げ下ろしの必要がない
- ・起き上がりや立ち上がりしやすい
- ・車いすなどに移乗しやすい
- ・視点を高くとれるので対話しやすい
- ・介護を受ける方の視野が広がる
- ・つかまるものを用意することができる

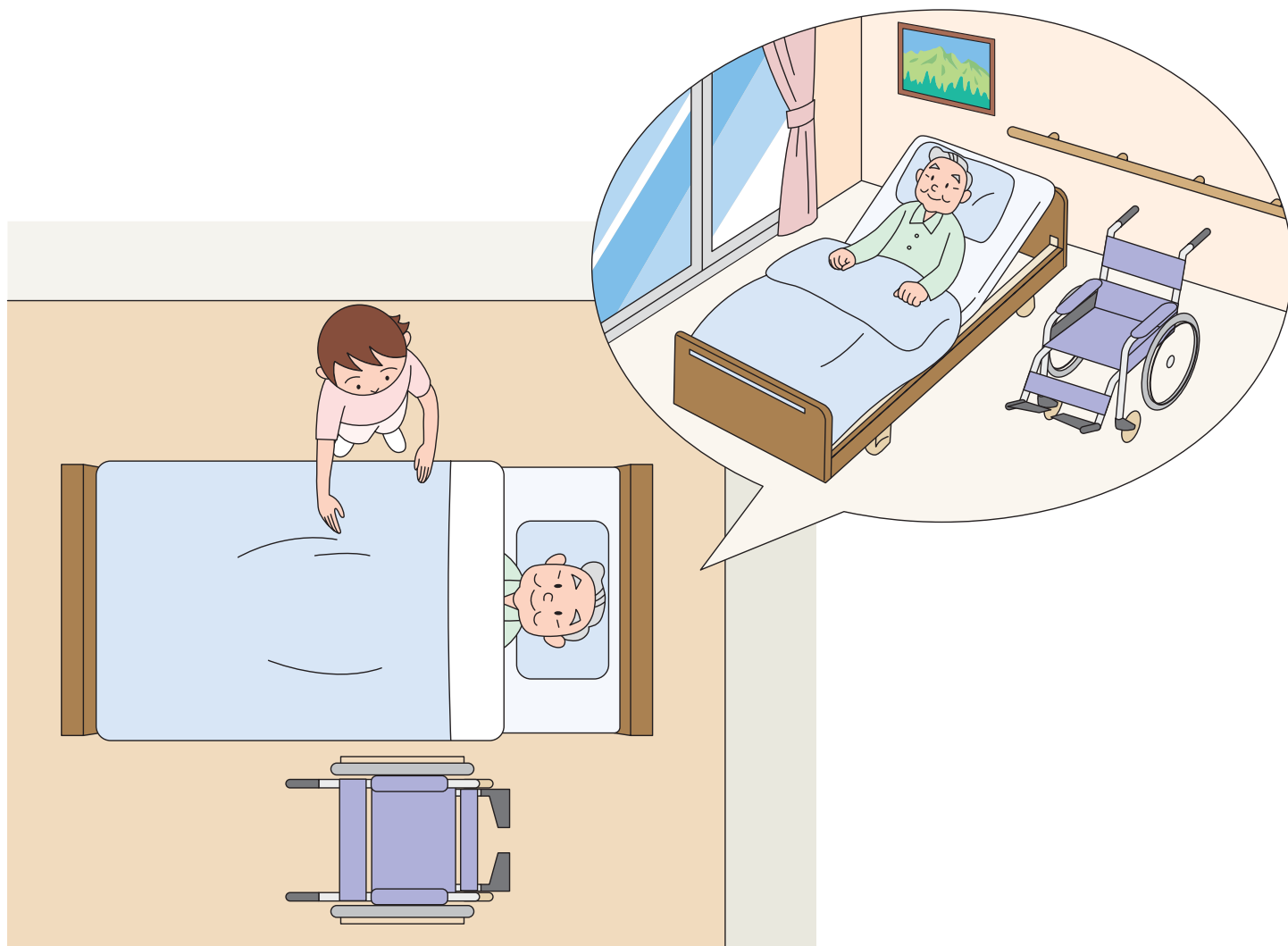
デメリット

- ・使い方を誤ると危険

快適な介護環境は、お部屋づくりから始まります。

介護を受ける方が起き上がる際に左右どちら側から乗り降りが可能か、また車いすを使用される場合はベッドのどちら側で使用するかなどを考慮に入れて、ベッドの周辺のスペースを確保してください。

また、シーツ交換、おむつ交換、着替え、洗髪、歯磨き、食事の介助などのうち、どれだけの介護を必要としているか、そしてそのためにはどれくらいのスペースが必要かを考慮に入れて、ベッドを設置しましょう。



電動介護ベッドの電源は部屋のコンセントから直接取れるように配置しましょう。

高さ方向については、ベッドの高さを調節することによってベッド周りの備品、部屋の構造物に当たらないように配慮しましょう。

ボードの固定は確実に行われているか常に確認しましょう。

ベッドの高さは常に最低位置か、もしくは介護を受ける方の適切な高さ(端座位)にしておくといいでしょう。

介護ならびに食事などでベッド各部を必要以上上げた場合は、その後必要でない限り介護を受ける方の症状に最も適した高さに戻しましょう。

電動介護ベッドの手元スイッチをサイドレールに掛ける場合は、不用意に触れないようサイドレールや手すりの外側に掛けましょう。

キャスター付きのベッドの場合、キャスターのストッパーは必ず固定するようにしましょう。

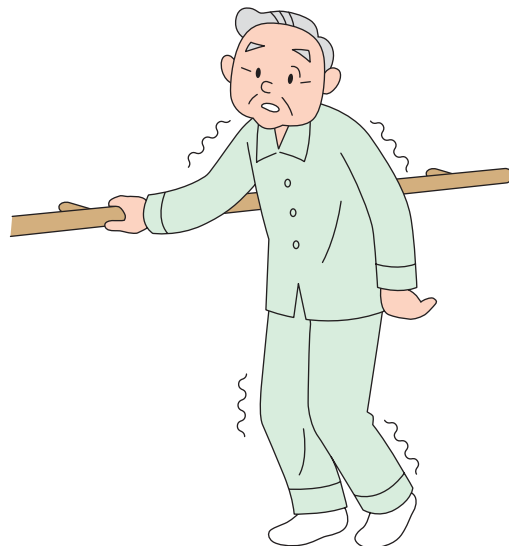
電動介護ベッドに異常があれば、電源プラグをコンセントから抜き、メーカーやディーラーに連絡しましょう。

歩行不安がある方の場合

起き上がり

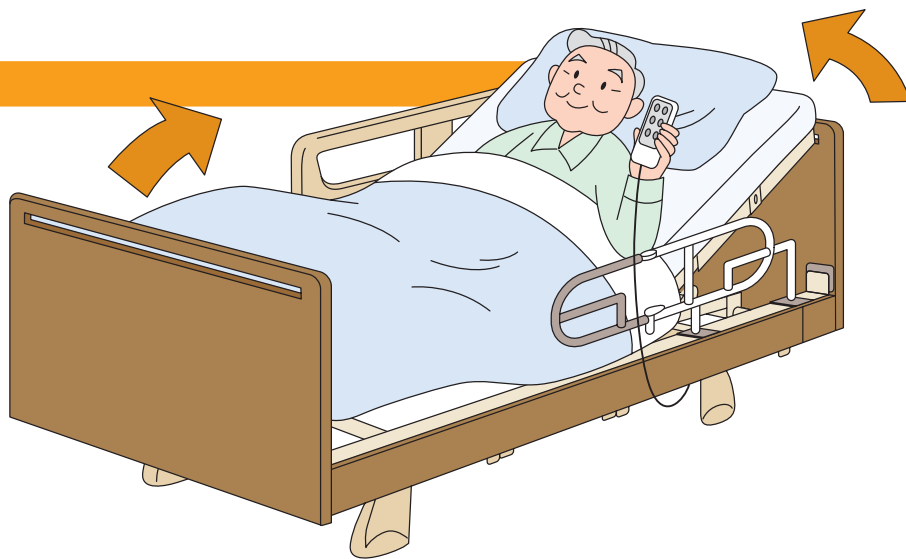
歩行不安がある方とは...

脳血管障害等で体の一部を動かすのが難しい
全身的な筋力低下
感覚異常や、バランスが取りづらいなど、まっすぐに
歩くことができにくい方を想定しています。



背上げ機能/膝上げ機能

手元スイッチの操作だけで、膝や背の角度がご自分の最適な位置に調節できますので、よりスムーズに起き上がれます。

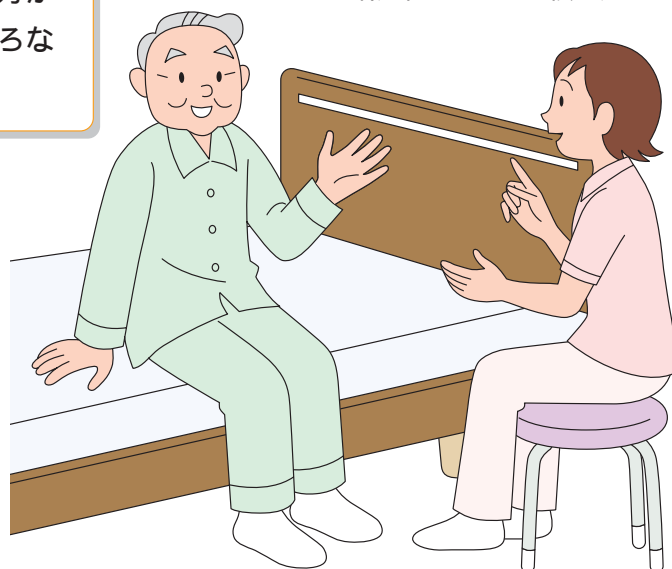


1 膝を少し上げる。	2 背を少し上げる。	3 背を上げ、立ち上がる時は膝を下げる。
<p>体がベッドの足元の方へずれるのを防ぎます。</p>	<p>背を少し上げた後「膝を下げる」操作と連動して、再度「背を上げる」ことにより、背上げの時の前ズレ、圧迫感を軽減できます。</p>	<p>介護を受ける方は少ない負担でスムーズに起き上がれます。</p>
		

端座位

歩行不安がある方のマットレスは、介護を受ける方が活動しやすい硬さのものを選びましょう。いろいろなかたさのマットレスが用意されています。

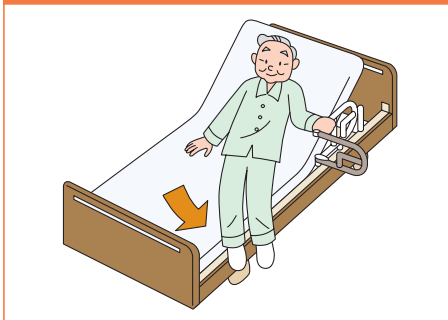
端座位：ベッドの横に座ること



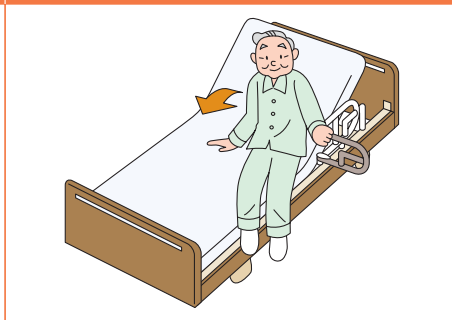
ポイント

この水準の方は一般の方とそれほど変わらない生活ができますので、活動範囲を広げるように日頃から心がけましょう。

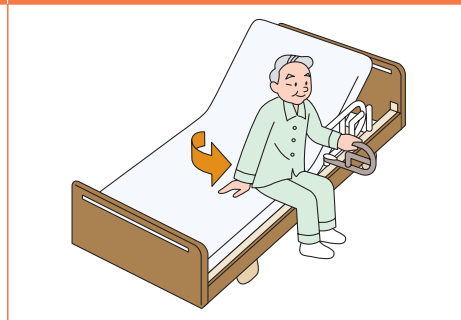
1 背を上げて、足を外に出す。



2 介助バーを使って上体を起こす。



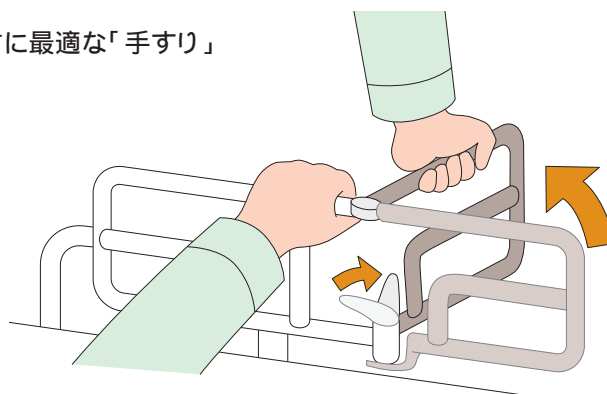
3 床に足をつける。



介助バーのご利用について

グリップ部分の角度が変えられる介助バーは、介護を受ける方に最適な「手すり」となり、立ち上がりや乗り降りを快適にサポートします。

サイドレールは介護を受ける方や寝具の落下予防を目的としています。立ち上がり時など、支えとしてお使いになる場合は介助バーをご使用ください。90°まで曲がり、立つときにつかまりやすい「手すり」になります。



手すりのストッパーは必ず固定しましょう。

手すり本体がぐらついたり、ストッパーの固定が出来ないようでしたらメーカーやディーラーに連絡しましょう。

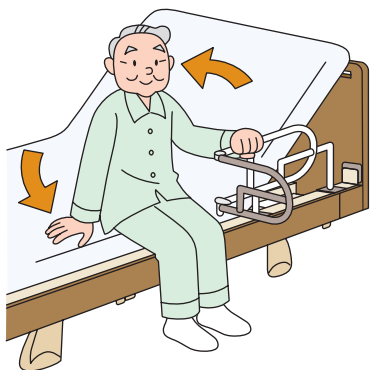
歩行不安がある方の場合

立ち上がり

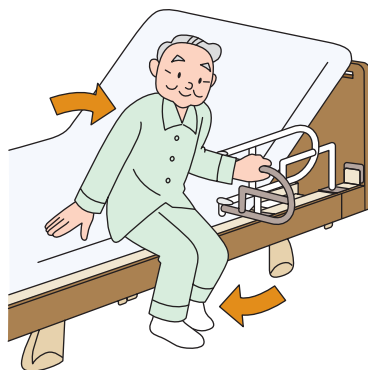
電動介護ベッドは、ベッドの高さを介護を受ける方の立ち上がりやすい高さに調節することができるので、負担を軽減し、スムーズに立ち上がれます。

1 介助バーを使って体の向きを変える。

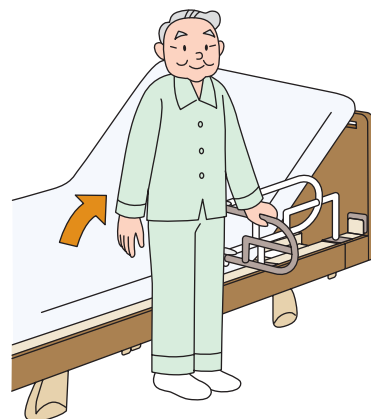
ベッドの高さを、座っているときよりも高くすると立ち上がりやすくなります。



2 足を引き、前傾姿勢をとる。

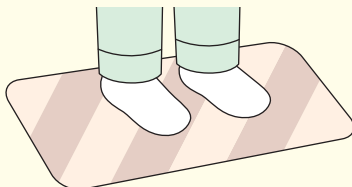


3 立ち上がる。

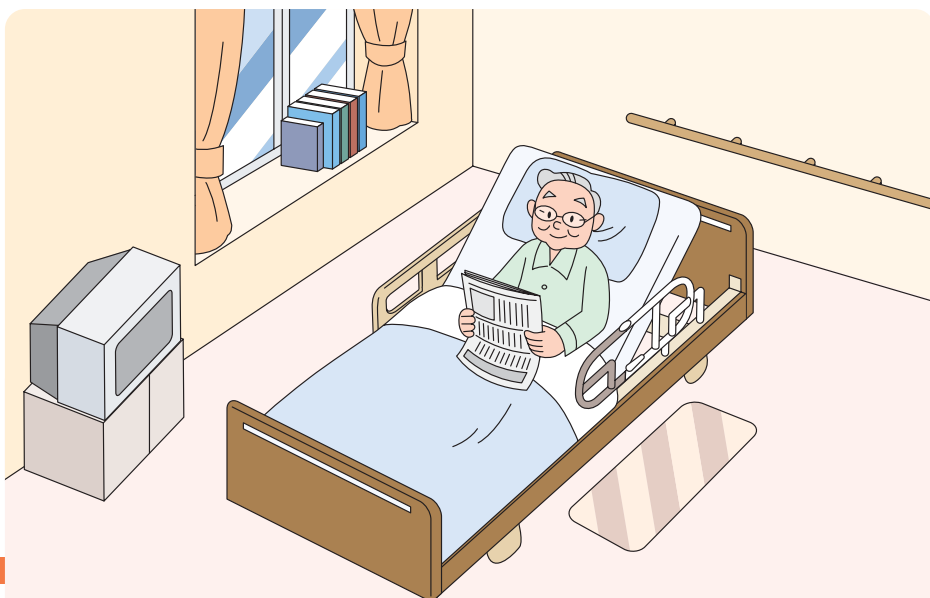


ポイント

床が滑りやすいときには、立つ位置に滑り止め用マットを敷くと安心です。



電動介護ベッドは、介護を受ける方が移動しやすいよう各部につかまりやすい工夫がなされています。なお、ベッド周りには、介護を受ける方が安心して移動できるように、ある程度の空間が必要です。さらに、居室の内外に手すりをつけたり、敷居等の段差をなくすといった、バリアフリーの設計を心がけることが大切です。



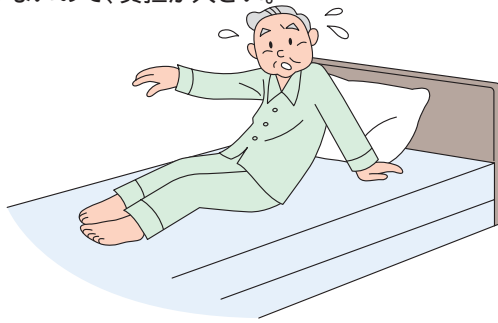
一般ベッドと電動介護ベッドの比較

一般ベッド

電動介護ベッド

起き上がり

介護を受ける方が自分で上半身を起こさなければいけないので、負担が大きい。

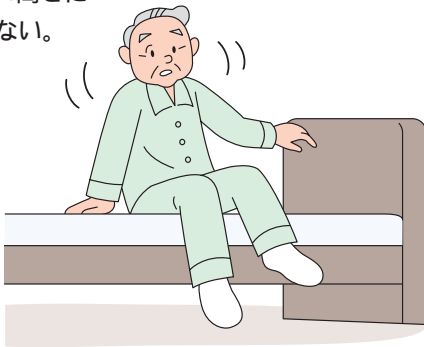


スイッチ操作だけで背上げ・膝上げができるので、らくに起き上がれる。

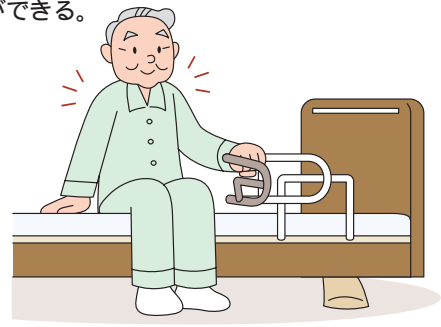


ベッドの横に座る

座りやすい高さに調節できない。

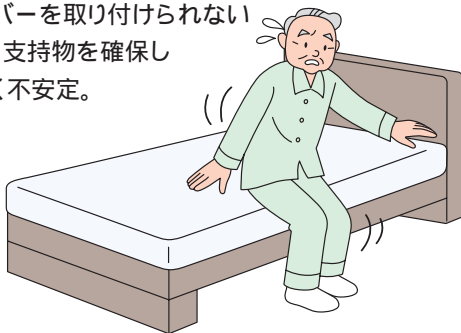


高さ調節機能で適切な高さになり、座りやすい姿勢を保つことができる。

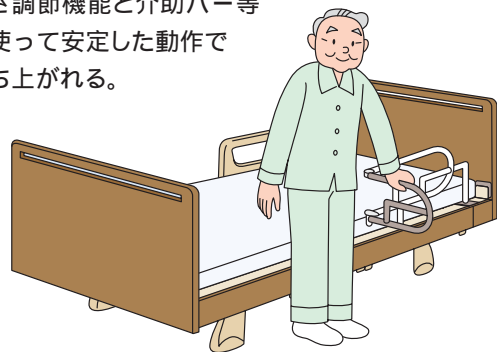


立ち上がり

立ち上がりやすい高さに調節できない。介助バーを取り付けられないので、支持物を確保しにくく不安定。

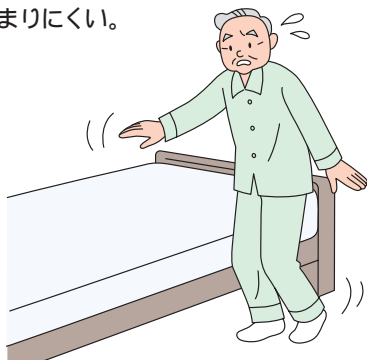


高さ調節機能と介助バー等を使って安定した動作で立ち上がれる。

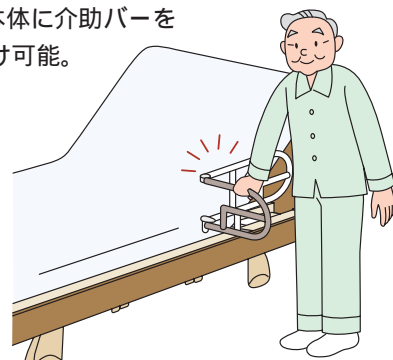


移動

健常者向けに設計されているので、ベッドにはつかまりにくい。



フットボードは握りやすい。ベッド本体に介助バーを取り付け可能。



動作支援が必要な方の場合

寝返り

動作支援が必要な方とは、自力では諸活動に若干支障があり、動作にあたって介護をする方の支援を必要とされる方のことを想定しています。

電動介護ベッドは、介助バーを使って自力で寝返りを打ったり、介護しやすい位置に高さを調節することで、らくに寝返りさせることができます。

自力で寝返りが可能な方の場合



介助バーを利用すると、自力で寝返りしやすくなります。

自力での寝返りがやや困難な方の場合

1 ベッドを寝返りさせやすい高さに調節する。

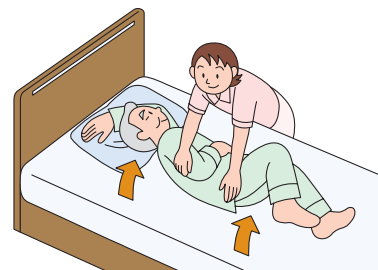


2 (介護をする方)
寝返りをさせる側に立つ
(介護を受ける方)
寝返りする側の膝を伸ばし、もう片方の膝を立てる。

寝返りする側の腕が体の下敷きにならないようにしましょう。



3 肩と腰に手を当て、手前に引く。



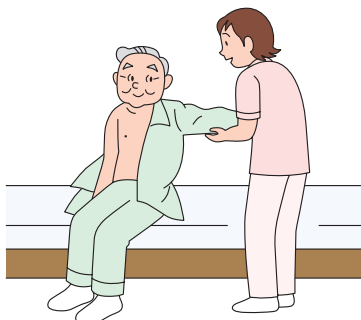
電動介護ベッドでできること

電動介護ベッドは、介護を受ける方のやる気を促し、ベッドの高さや背の角度を介護がしやすい位置に調節できるので、寝返り以外の介護も少ない負担で行えます。

体を拭く

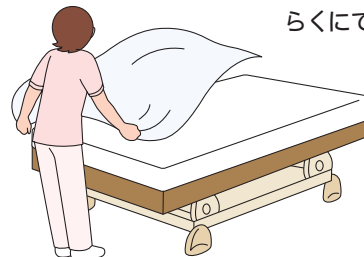


上着を着替える



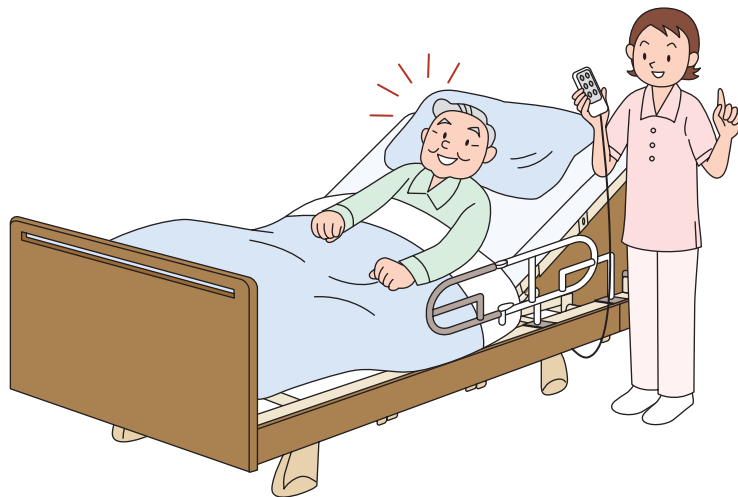
ベッドメイキング

ボードの取り外しと高さ調節でベッドメイクもらくにできます。

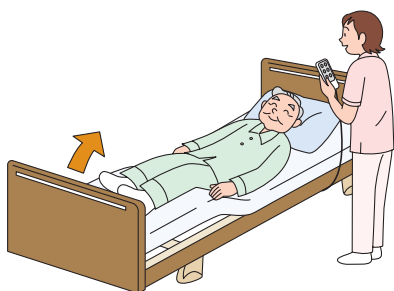


起き上がり

電動で背上げができるので、らくに起き上がることができます。介護を受ける方の生活の幅を広げるとともに、介護する方の負担も軽減します。

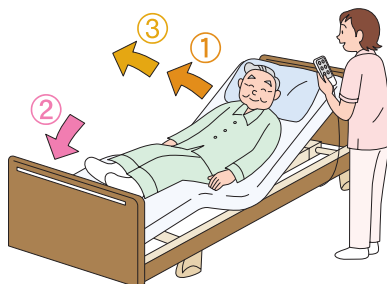


1 膝を少し上げる。



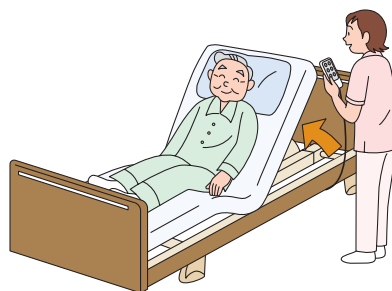
体がベッドの足元の方へずれるのを防ぎます。

2 背を少し上げる。



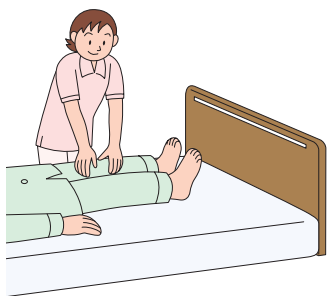
背を少し上げた後「膝を下げる」操作と連動して、再度「背を上げる」ことにより、背上げの時の前ズレ、圧迫感を軽減できます。

3 背を上げ、立ち上がる時は膝を下げる。

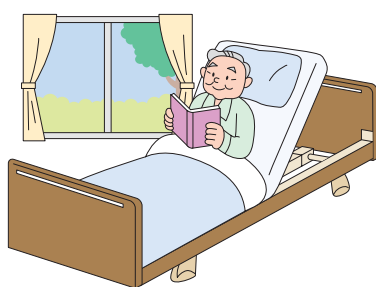


介護を受ける方は少ない負担でスムーズに起き上がれます。

マッサージ

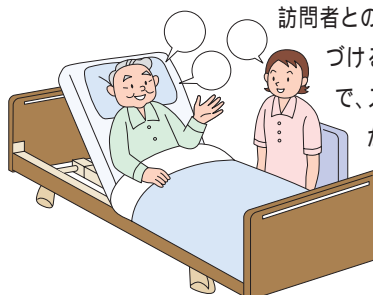


本や景色を見る



会話を楽しく

背上げを行うと、介護を受ける方はご家族や介護をする方、訪問者との目線の高さを近づけることができるので、ストレスなく会話が行えるようになります。



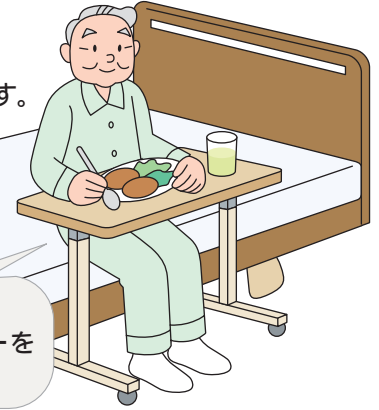
動作支援が必要な方の場合

端座位

座りやすい高さに変えられるベッド、スムーズな乗り降りをするための介助バーが、介護を受ける方の日常生活を快適にサポートするとともに、介護する方の負担を軽減します。

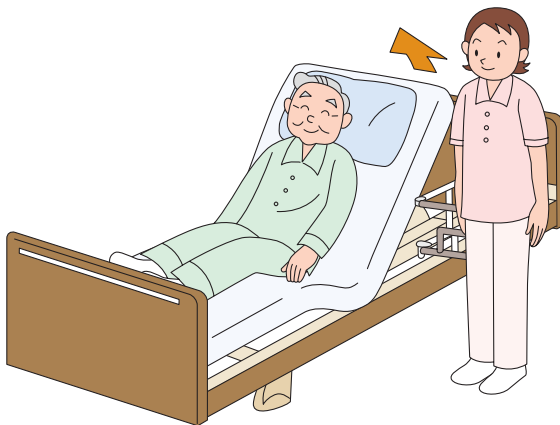
ベッドの高さは、端座位のときにかかとがきちんと床につく高さにします。

端座位：ベッドの横に座ること

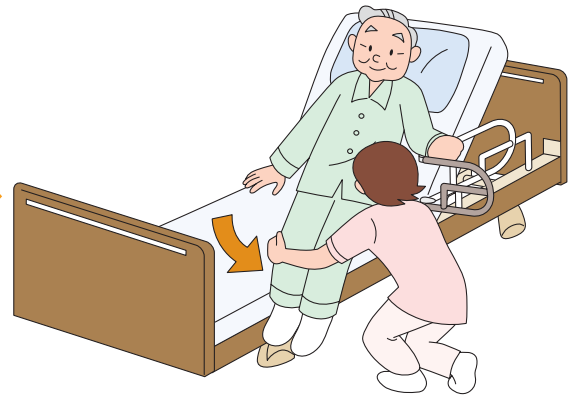


テーブルのストッパーがある場合は必ずストッパーを固定しましょう。

1 膝を少し上げ、背を上げる。



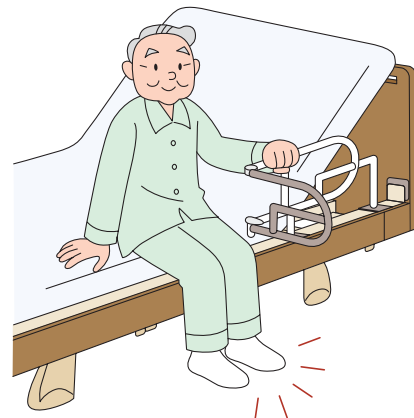
2 膝を下げ、足を床に下ろす。



3 上体の向きを直す。



4 足を床につけ、座る。



立ち上がり

動作支援が必要な方にとって、立ち上がりは最も体に負担のかかる動きの一つです。電動介護ベッドは介護を受ける方、介護をする方の苦労を軽減しながら、スムーズな立ち上がりをサポートします。

自力での立ち上がりが困難な場合

足を開いてベッドの手前に浅く腰かけてもらい、膝の曲げ伸ばしを利用して引き上げると立ち上がることができます。



片マヒがある場合

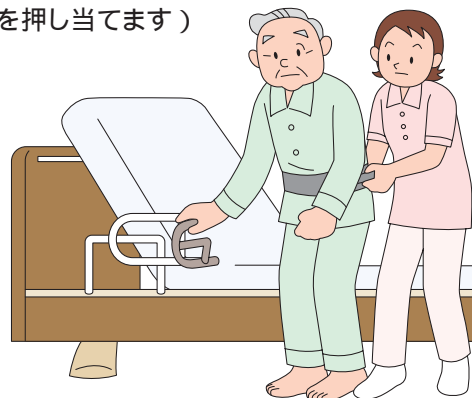
介護ベルトを使った立ち上がりのしかた

介護を受ける方

健常な側の手で介助バーのできるだけ前の方をつかんでもらい、上体を前に傾けてもらいます。

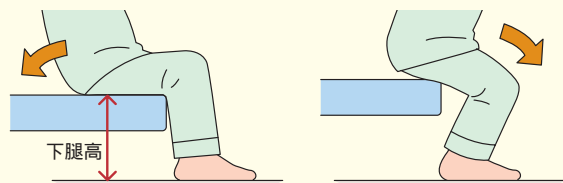
介護をする方

マヒのある側に立ち、介護ベルトをしっかり握って体を支えながら引き上げます。
(マヒのある側の足が滑らないように、介護をする方は足を押し当てます)



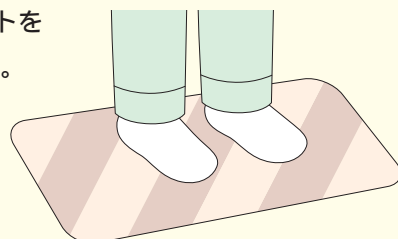
ポイント

ベッドの高さを介護を受ける方の下腿高より少し上げておくと、立ち上がりやすくなります。



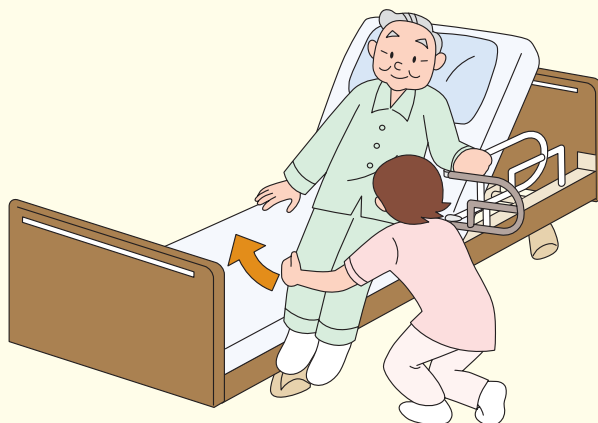
[目安] 下腿高：身長 × 0.25

床が滑り易いときには、立つ位置に滑り止め用マットを敷くと安心です。



介護を受ける方をベッドに戻す際は、あらかじめ戻る位置を決めてから戻すようにしましょう。

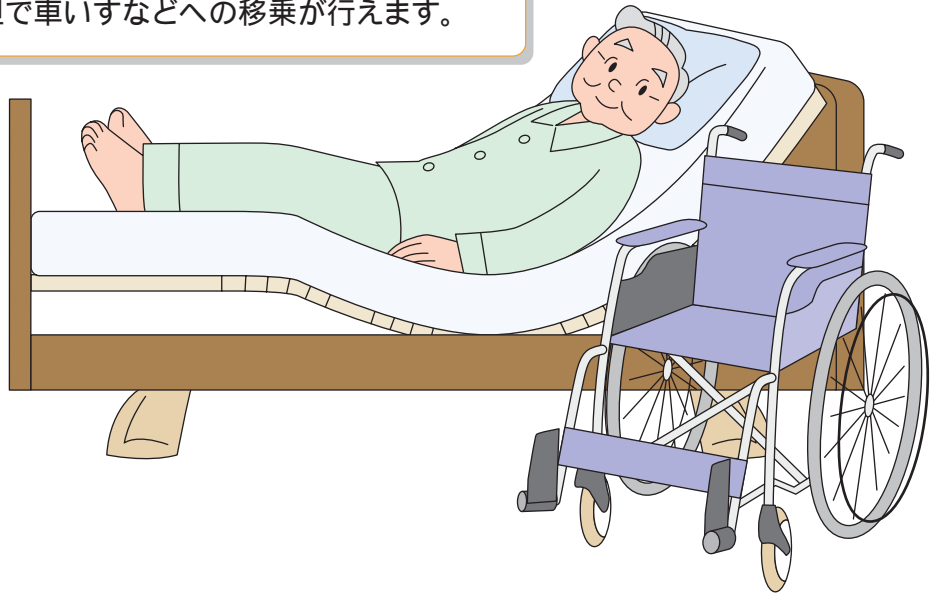
介護を受ける方のその後の動作がしやすくなります。
(横になったとき、おなかに来る部分が目安です)



動作支援が必要な方の場合

移乗

ベッドの高さが変えられるので、電動介護ベッドなら介護を受ける方、介護をする方とも少ない負担で車いすなどへの移乗が行えます。



ベッドから車いすへ移る動作手順例

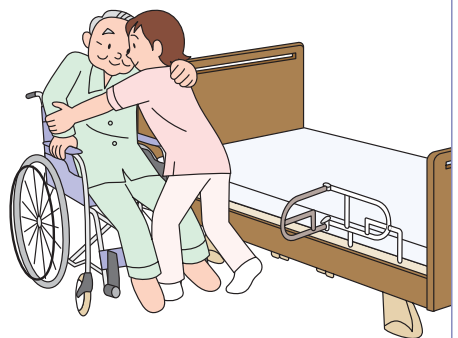
1 片足を介護を受ける方の膝の間に差し込み、腰をつかみ、立ち上げさせます。
(この時車いすのブレーキをかけ、フットレストを上げておきます)



2 移動する先の車いすの位置をしっかりと確認します。

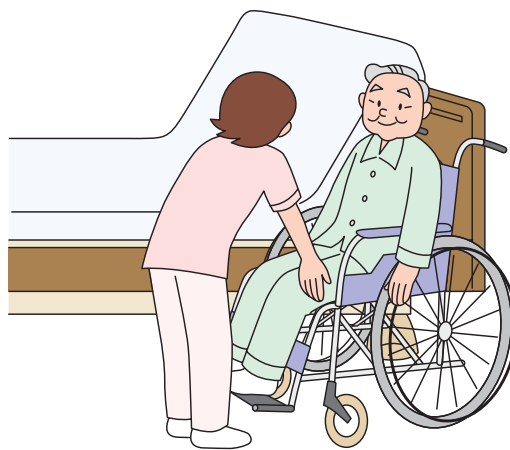
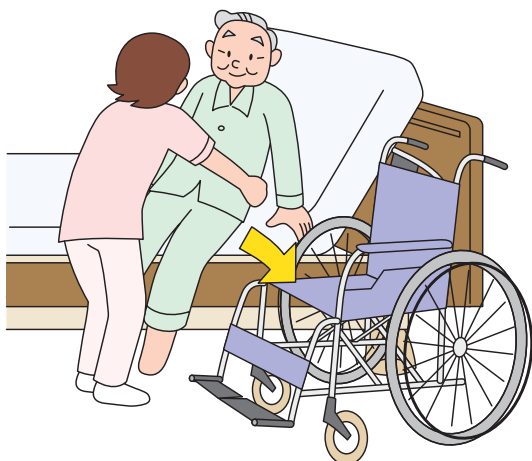


3 ・介護をする方の膝で介護を受ける方の膝を支えながら、介護を受ける方のお尻を車いすの方向に向けます。
・介護を受ける方のお尻をゆっくりと深く下ろします。



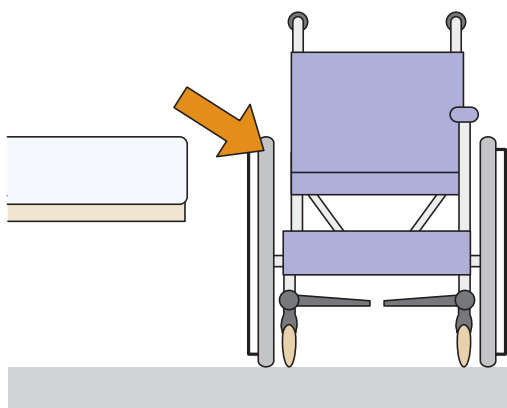
介助バーのストッパーは必ず固定しましょう。
車いすのブレーキは必ず固定しましょう。

アームレストはね上げ式車いすによる移乗例

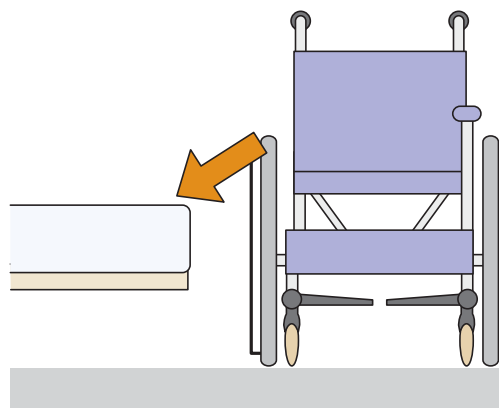


アームレストをはね上げられますので、移乗の際じゃまになりません。

(1) ベッドから車いすへの移乗



(2) 車いすからベッドへの移乗



！ポイント

- (1) ベッドから車いすへの移乗の際は、ベッドの高さを車いすよりやや高く。
- (2) 車いすからベッドへの移乗の際は、逆にベッドの高さを車いすよりやや低く調節すると、移乗がらくに行えます。
- (3) スライディングボード等を併用すると移乗がらくに行えます。

動作支援が必要な方の場合

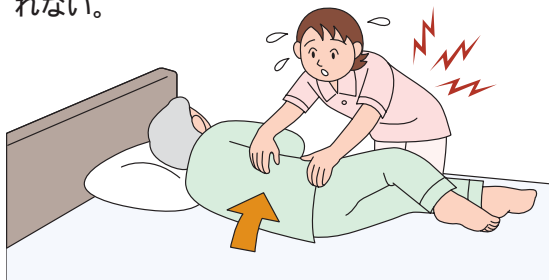
一般ベッドと電動介護ベッドの比較

一般ベッド

電動介護ベッド

寝返り

介助バーなど、動作を補助する用具が取り付けられない。



介助バーなど動作を補助する用具が取り付けられるので、スムーズ。



起き上がり

自力で起き上がれない場合は介護をする方の手を借りることになり、負担大。

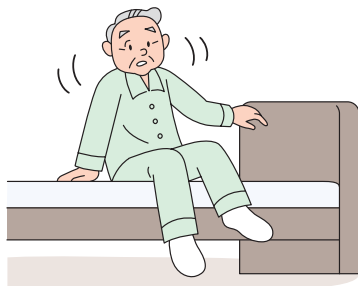


電動の背上げ機能で、スムーズ。

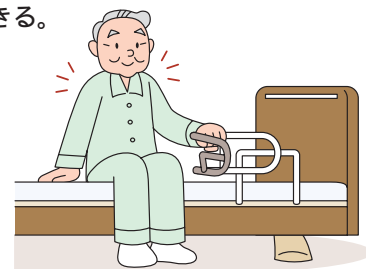


端座位

座りやすい高さに調節できない。



高さ調節機能で適切な高さにでき、座りやすい姿勢を保つことができる。

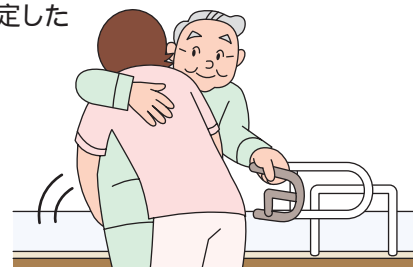


立ち上がり

高さ調節ができない。介助バーが取り付けられないので、支持物を確保できず、不安定。

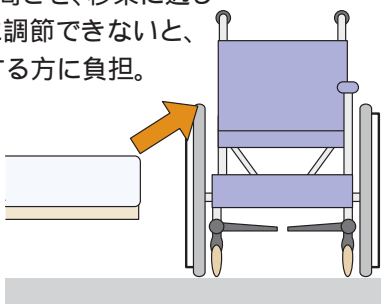


高さ調節機能と介助バー等を使って、安定した動作ができる。

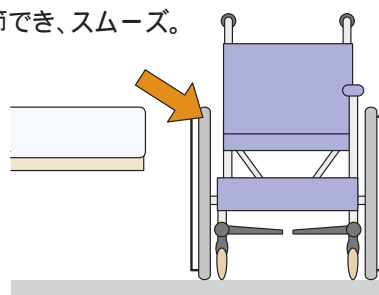


移乗

ベッドの高さを、移乗に適した高さに調節できないと、介護をする方に負担。



ベッドの高さを移乗しやすい高さに調節でき、スムーズ。



医療・介護ベッド安全普及協議会から

医療・介護ベッド安全普及協議会はホームページを開設し療養環境の安全普及に努めています。



<http://www.bed-anzen.org>

医療・介護ベッド安全普及協議会では本冊子のほか、「医療・施設用ベッドの安全マニュアル」も発行しております。



ベッドの安全使用マニュアル

WEB版 ベッドの安全使用マニュアル

ベッドの安全使用マニュアルは当協議会ホームページからダウンロードしてご利用になれます。(PDFファイル)



A4サイズ
50ページ
ファイル容量 約2Mb

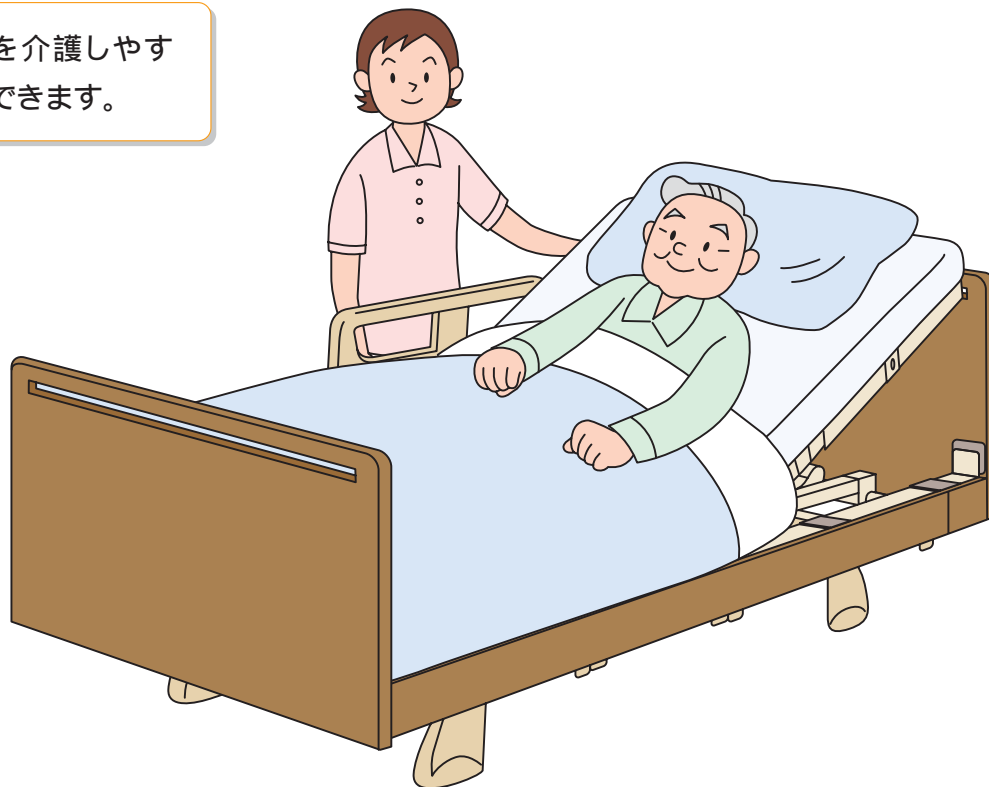
<http://www.v-net.co.jp/bed-anzen/manual/bed-anzen.pdf>

寝たきりの方の場合

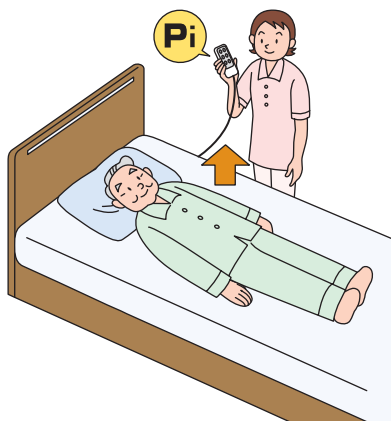
(寝たきりとは、ベッドでの体位変換が自力では不可能な方を想定しています。)

寝返り

電動介護ベッドはベッドを介護しやすい高さに調節することができます。

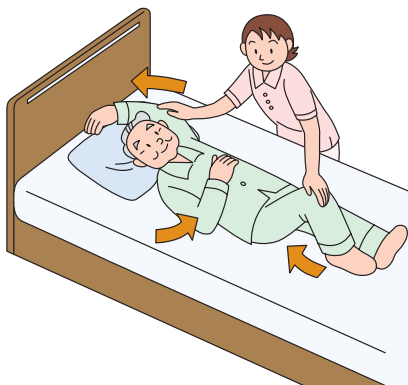


1 ベッドを寝返りさせやすい高さに調節する。

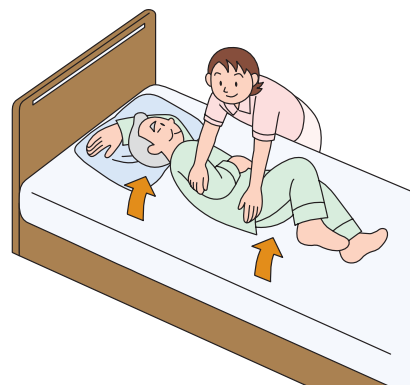


2 (介護をする方)
寝返りをさせる側に立つ
(介護を受ける方)
寝返りする側の膝を伸ばし、
もう片方の膝を立てる。

寝返りする側の腕が体の下敷きにならないようにしましょう。



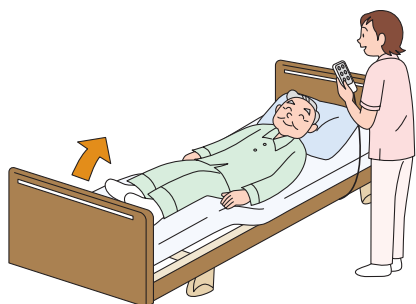
3 肩と腰に手を当て、手前に引く。



起き上がり

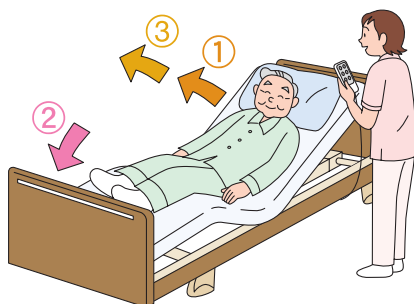
手元スイッチによる背上げ操作で、介護を受ける方にも介護をする方にも、スムーズに起き上がり作業が行えます。体のずれを防止するために、まず膝上げ操作をしてください。

1 膝を少し上げる。



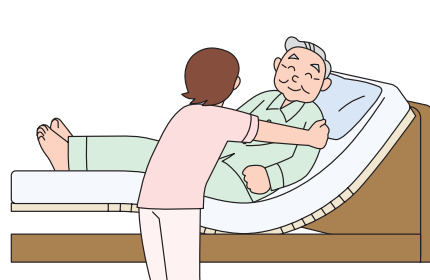
体がベッドの足元の方へずれるのを防ぎます。

2 背を少し上げる。



背を少し上げた後「膝を下げる」操作と連動して、再度「背を上げる」ことにより、背上げの時の前ズレ、圧迫感を軽減できます。

3 背を上げ、立ち上がる時は膝を下げる。

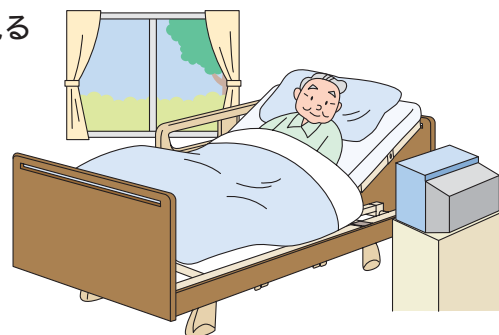


背を上げてきゅうくつに感じるときは一度上体をベッドから離し、圧迫を逃がしてあげましょう。

背上げ調節で、できること

電動介護ベッドは、手元スイッチの操作一つでベッドの背の角度を自在に変えることができます。いろいろな介護を少ない負担で行えます。

本やテレビを見る



食事をする



会話がしやすい



背上げを行うと、介護を受ける方はご家族や介護をする方、訪問者との目線の高さを近づけることができるので、ストレスなく会話が行えるようになります。

寝たきりの方の場合

(寝たきりとは、ベッドでの体位変換が自力では不可能な方を想定しています。)

一般ベッドと電動介護ベッドの比較

一般ベッド

電動介護ベッド

寝返り

高さ調節ができないので、介護をする方の負担大。



高さ調節ができるので、らかな姿勢で介護できる。



起き上がり

介護をする方の労力のみで起き上がらせる事になるので、とても負担がおおきい。



起き上がり姿勢を保持しやすい。

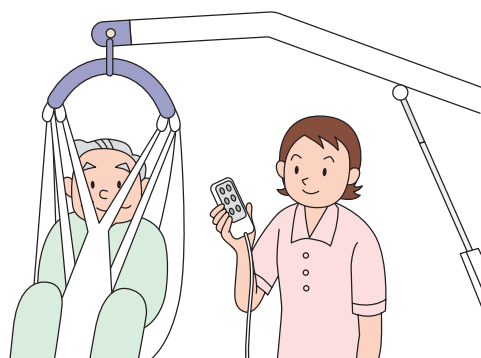


移乗

リフトの脚部がベッドの下に入らないと使えません。

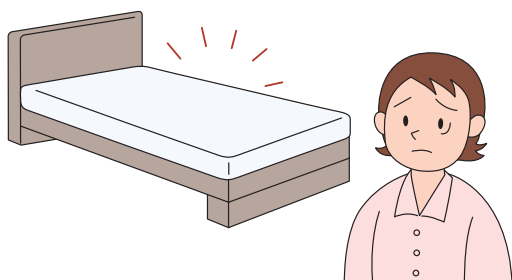


リフトが使えるので、移乗がとてもスムーズになります。

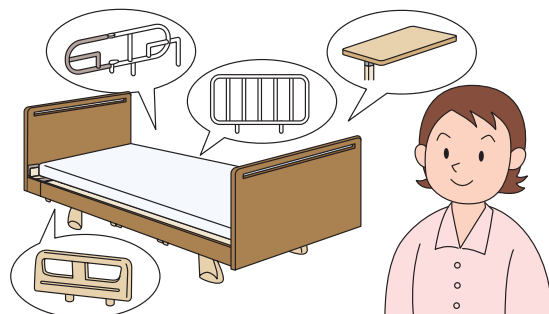


補助用具の利用

介護に必要な補助用具がありません。(介助バー、ベッドサイドレールなどが取り付けられません)



テーブル、ベッドサイドレールなど、組み合わせる補助用具(特殊寝台付属品)が目的に合わせて選べます。



補助用具を上手に活用すると、行動意欲の活性化を促すことができます。

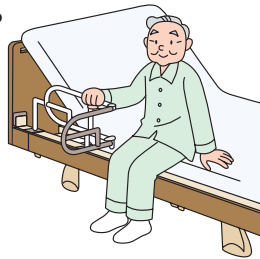
いすに座ったり足を床につけて食事をすることは、一日中横になっている状態より介護を受ける方に刺激を与え、行動意欲の活性化を促します。

ベッドサイドレール・介助バー

ベッドからの起き上がり、立ち上がりをサポートします。
より快適な生活が、行動意欲をさらに促します。

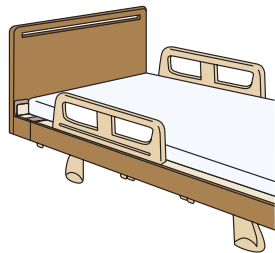
介助バー

つかまって体を支えます。
使いやすい角度に調節
することができます。



ベッドサイドレール

寝具のズレ予防やベッド
からの転落予防に
役立ちます。

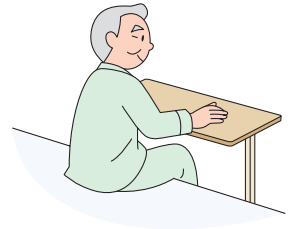


テーブル

より快適な生活が、行動意欲をさらに促します。

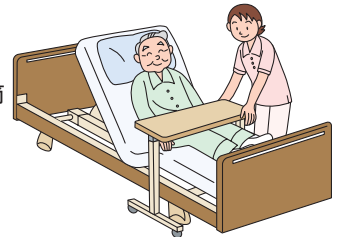
サイドテーブル

キャスター付きで、テーブル
の移動が簡単です。使用する
方にあった高さ調節が可能
です。



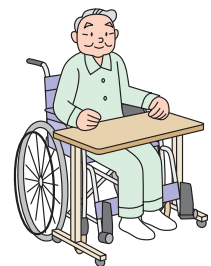
オーバーベッドテーブル

キャスター付きで、高さ調節
が可能です。



介護テーブル

姿勢保持に不安があっても、
ベッドや車いすに腰かけた状
態で使用できます。床に足を
つけることで、刺激と行動意
欲の活性化をうながします。



移動機器

介護を受ける方

意欲を高め、負担も軽減します。

歩行器 / 車いす
歩行が困難な方、または不可能な
方の移動補助具です。

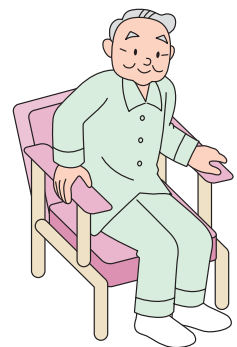


いす

日常生活の快適性を高めます。

立ち上がりいす

座面が前傾しますので、立
ち上がり不安のある方でも無理なく立ち上がること
ができます。

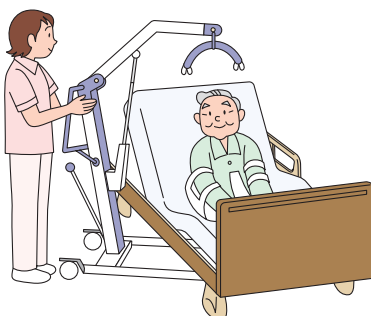


介護をする方

介護負担を軽減します。

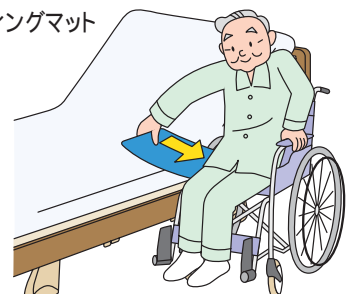
リフト

歩行が困難な方、また
は不可能な方のベッド
から車いすなどへの移
乗を補助します。



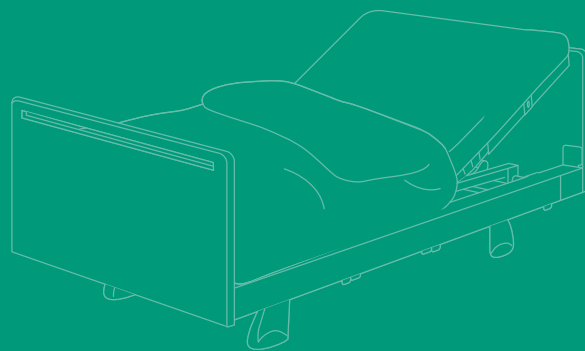
スライディングボード・スライディングマット

座位でベッドから車いす
へ移乗する際にベッドと
車いすの間に敷いて使用
する補助具です。

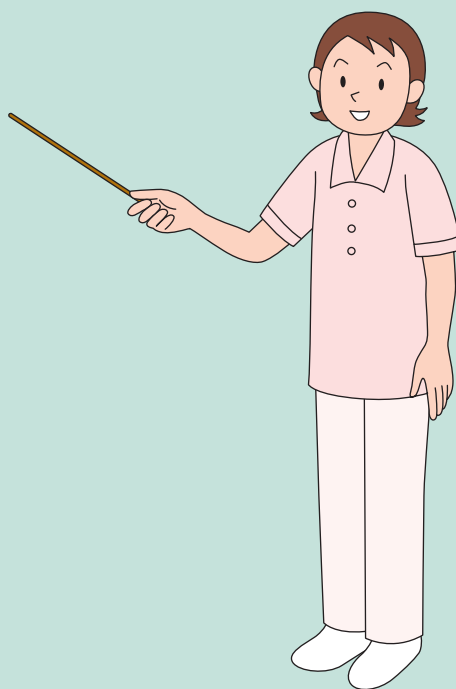


電動介護ベッドを安全にご使用いただくために!

ここではベッド周りで発生するインシデント及びアクシデントを予防するために、在宅介護の環境で想定されるシーンごとにベッドの安全な使用方法や注意事項をまとめました。

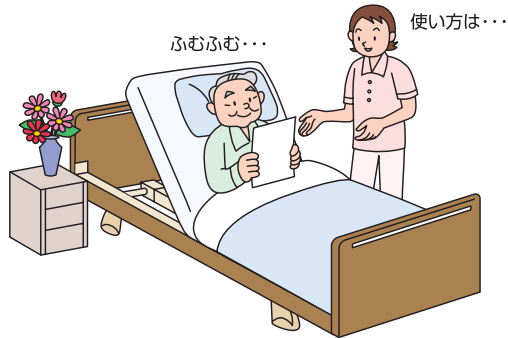


電動介護ベッドの安全なご使用方法	24 ~ 25
製品安全についての注意事項	26
サイドレール等についての注意事項	27 ~ 28
シーン 1 設置	29
シーン 2 物を取る	30
シーン 3 食事	31
シーン 4 乗り降り	32
シーン 5 移乗	33
シーン 6 お子さまに気をつけて	34
シーン 7 体位変換・おむつ交換	35
シーン 8 整理・整頓	36
シーン 9 電子機器の使用	37



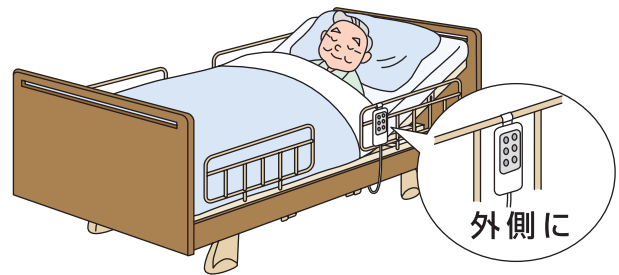
電動介護ベッドの安全なご使用方法

取扱説明書を読みましょう



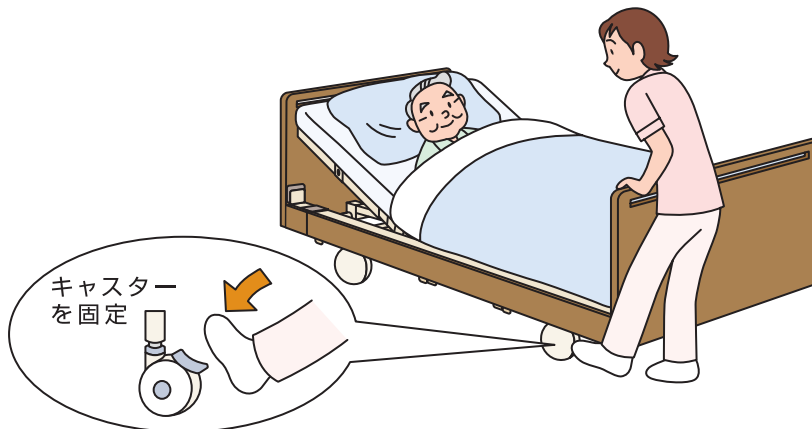
正しい使用方法を知らないと、思わぬケガをする恐れがあります。介護を受ける方はもとより家族等も取扱説明書を読みましょう。症状によっては、ベッド操作(背上げ・膝上げ・昇降)をすることが症状に適さない場合があります。使用に際し不安のある方、治療中の方は、医師に相談の上ご使用しましょう。

手元スイッチはここに付けて!



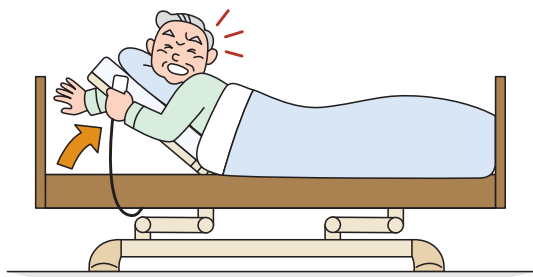
手元スイッチを上図の位置にかけないと、無意識にスイッチに触れて誤操作する恐れがあります。手元スイッチは上図の位置にかけましょう。お使いになる方の理解度が低下している場合は、手元スイッチを手の届かないところにおきましょう。

キャスターのストッパーは固定して!



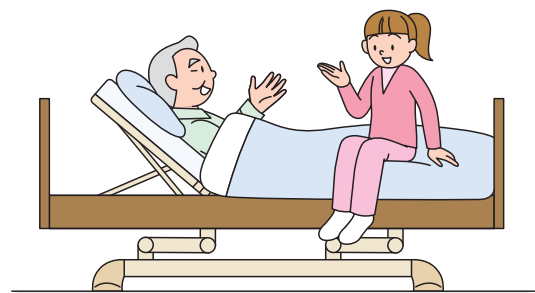
キャスターが固定されていないと、思わぬケガをする恐れがあります。キャスターは必ず固定しましょう。

うつ伏せで背上げしないでください



うつ伏せに寝た状態での背上げは関節を逆に曲げることになり、けがをするおそれがあります。絶対に行わないでください。頭側、足側が反対の状態でご寝ないでください。

1人用の設計です

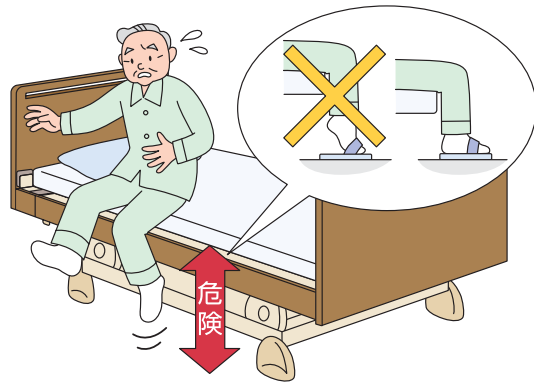


電動介護ベッドは1人用の設計になっています。2人以上ではご使用になれません。

電動介護ベッドの安全なご使用方法

ベッドの高さは適切な位置に!

ベッドの高さが高いと、乗り降りの際に転倒する恐れがあります。
ベッドの高さは常に低めの位置か、もしくは介護を受ける方に適切な(端座位姿勢のとれる)高さにしましょう。



移乗の際は高さを合わせて!



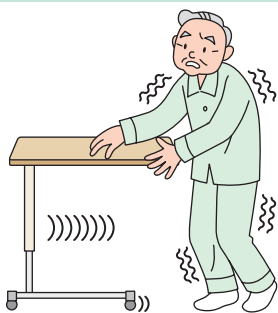
介護を受ける方の移乗時に、ベッドの高さが合っていないと、無理をして思わぬケガをする恐れがあります。
介護を受ける方を移乗させる際は、ベッドの高さを調節し、移乗しやすい高さに設定しましょう。

整理整頓を!



ベッドの周辺が乱れていると、思わぬケガをする恐れがあります。
ベッド周りには、不用意に物を置かないようにしましょう。

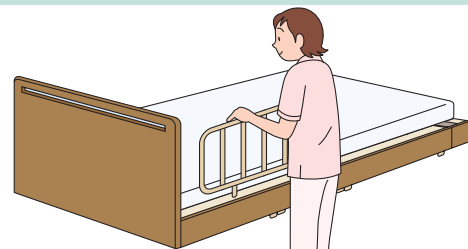
動くものにつかまり歩行はやめましょう!



ベッドサイドテーブル
オーバーベッドテーブル

動くもの(キャスター付のテーブルなど)を支えにして歩くと、滑って転倒する恐れがあります。

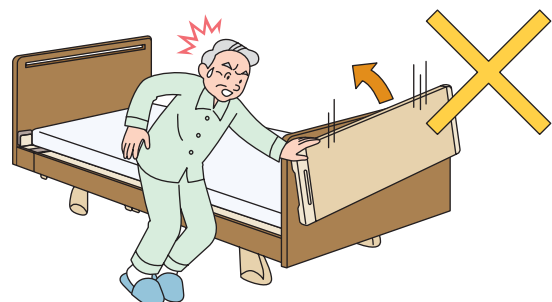
サイドレールや手すりの点検を!



点検を怠ると思わぬケガをする恐れがあります。
次の点を定期的確認しましょう!
・抜き差しはスムーズですか?
・極端ながたつきはありませんか?

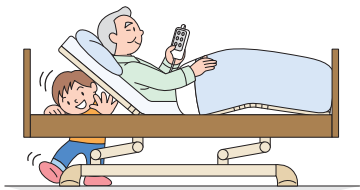
オーバーテーブルの注意

オーバーテーブルがサイドレールにしっかりはさまっていることを確認しましょう。
オーバーテーブルの位置が不安定な場合はテーブルの位置を変えるだけでなく、サイドレールの位置にも注意しましょう。
オーバーテーブルをヘッド・フットボードに掛けている時は、手をついたり寄りかかったりしないように注意しましょう。オーバーテーブルが不意に外れて転倒するなどの思わぬ事故が起きる可能性があります。



製品安全についての注意事項

ベッドの下などにもぐり込まないでください



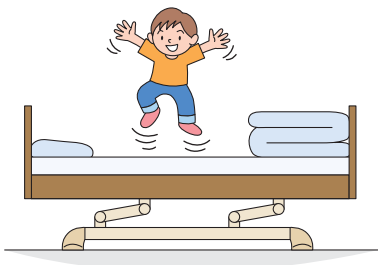
ベッドの下にもぐり込んだり、ベッド内に身体の一部(頭や腕)などを入れしないでください。ベッドの可動部分(ボトムなど)とフレームやベッドサイドレールとの間に頭・腕や足をはさんでケガをするおそれがあります。ベッドポジション操作時は、ベッドの下やうしろに障害物がないことを確認のうえ、操作してください。

踏み台がわりにしないでください



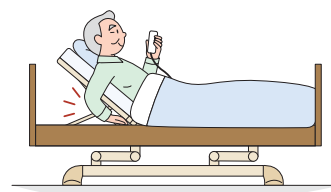
踏み台代わりにベッドの上にも立ったり、足をかけて立ち上がったたりしないでください。ベッドから落下、転倒してケガをするおそれがあります。

ベッドの上で飛び跳ねないでください



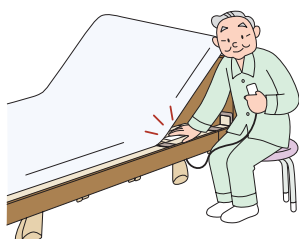
ベッドの上で飛び跳ねないでください。特にお子様にはご注意ください。故障やケガの原因となります。

電動操作中は手や足を入れしないでください



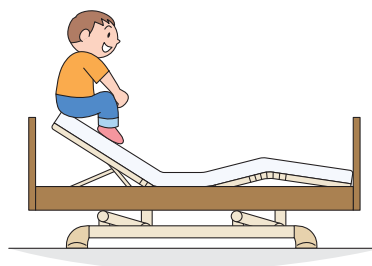
電動操作中は、ベッドフレーム、背ボトムなどの下に手や足を入れしないでください。下がってきたベッドフレーム、背ボトムなどで手や足をはさんでケガをするおそれがあります。

指ばさみ注意



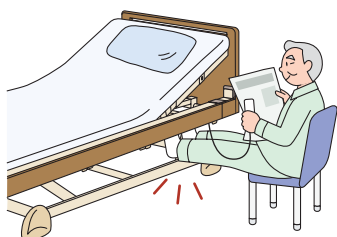
背ボトムや足ボトムを下げる時には、ボトムの下に手や指を絶対に入れないでください。ボトムとオプション受けなどの間にはさまれてケガをするおそれがあります。

上がっているボトムに乗らないでください



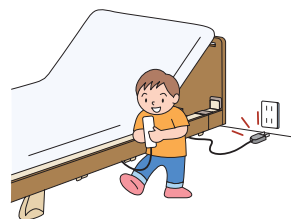
上がっている背ボトムや足ボトムの上に腰かけないでください。ボトムの支持部に大きな力がかかり、支持部やボトムの変形、破損の原因となります。

足先に注意



ベースフレームの上に足をかけたり、足先をベースフレームの下につっこんだりしないでください。はさまれてケガをするおそれがあります。

誤操作を防止するためプラグを抜いてください

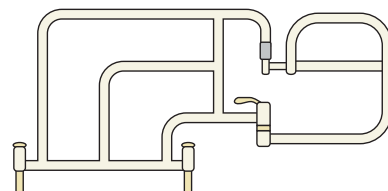
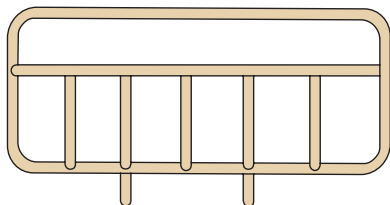


幼児や操作が理解できないと思われる方(認知症の方など)が一人で手元スイッチに触れる可能性がある場合(介護をする方の外出時など)には、電源プラグをその都度抜いてください。誤操作によりケガをするおそれがあります。

サイドレール等についての注意事項

サイドレール等の使用目的

サイドレールは、ベッドで寝ている人の転落や寝具の落下を予防するための製品です。また介助バーはベッドから自力で起き上がることを助けるための製品で、サイドレールと同様にベッドに取り付けて使用します。



サイドレールは、ベッドで寝ている人の転落や寝具の落下を予防するための製品です。

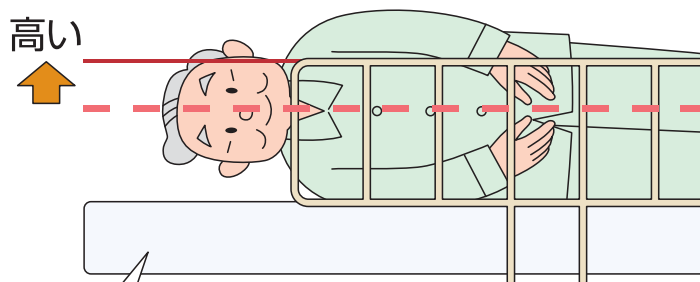
介助バーは、ベッド上での起き上がりやベッドからのたちあがりなどの動作を補助するための製品です。

これらの製品は、介護を受ける方々の安全の確保やQOL(生活の質)の向上に役立っています。

サイドレールは高いものを!

サイドレールの高さが低いと、サイドレールを乗り越えて転落する恐れがあります。

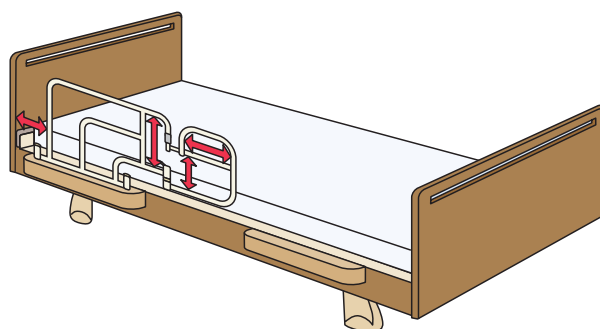
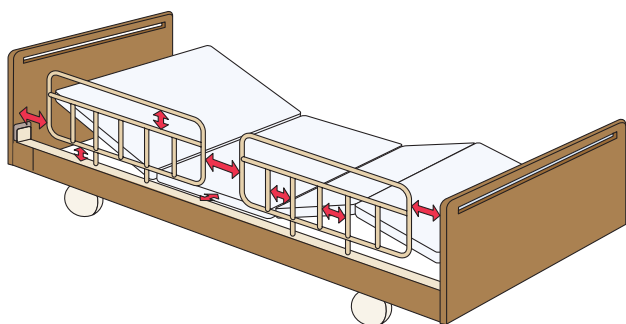
サイドレールは、介護を受ける方が側臥位の寝姿勢をとったとき、身体の中心線(鼻とへそを結ぶ線)よりも上端が高いものを選びましょう。



褥創予防マットレスは、厚みがありますので注意しましょう。

すき間があります

これらの製品は、用途により形状や構造が異なるため、いろいろなすき間があります。また、こうした製品内部のすき間ばかりでなく、ベッド本体との組み合わせによっても同様のすき間が生じます。このようなすき間により、介護を受ける方々の視野が確保されるとともに、閉塞感が軽減されます。



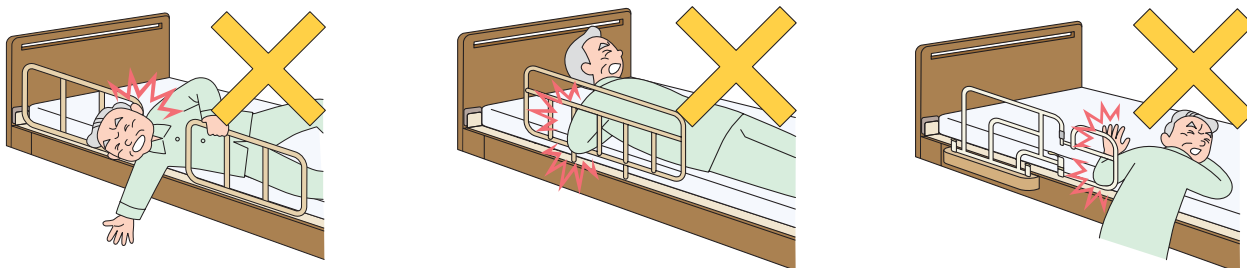
すき間にご注意

介護を受ける方々の心身の状態や利用環境により、これらのすき間に身体の一部がはさまれたり圧迫される可能性があります。身体の一部がはさまれたり圧迫されると、身体の一部がはさまれたり圧迫される可能性があります。十分にご注意ください。

ベッド上で予測できない行動をとられる方や、自力で危険な状態から回避することができないと思われる方につきましては、これらのすき間に身体の一部(特に頭や首)がはさまれないよう十分にご注意ください。

はさまれ・圧迫に注意してください。(図は一例です)

身体の一部(特に頭や首)がすき間に入ると抜けなくなり、傷害や生命にかかわるけがをするおそれがあります。



身体の一部(特に頭や首)がすき間に入った状態でベッドを操作すると挟まれて身体の一部がはさまれたり圧迫されると、身体の一部がはさまれたり圧迫されると、傷害や生命にかかわるけがをするおそれがあります。



身体の一部(特に頭や首)がベッドサイドレールや介助バーにあたり圧迫されると身体の一部がはさまれたり圧迫されると、身体の一部がはさまれたり圧迫されると、傷害や生命にかかわるけがをするおそれがあります。

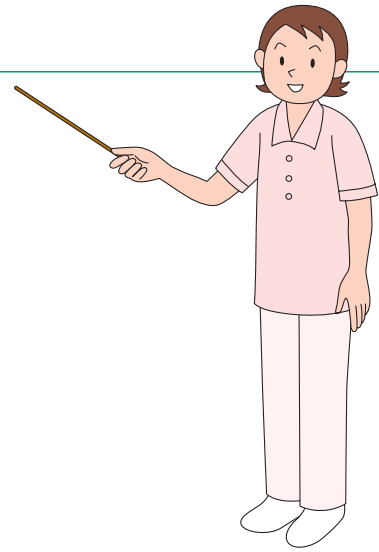


ワンポイントアドバイス

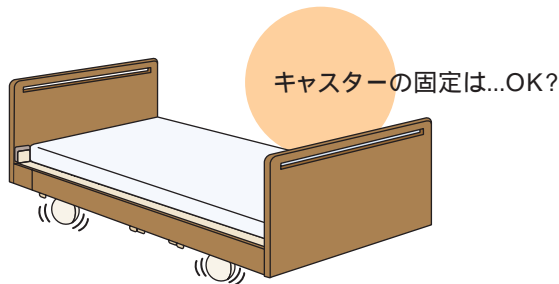
介護を受ける方の病状や症状に応じて、上図のすき間をクッション材や毛布で埋めるようにしましょう。サイドレール間のすき間を埋めるための製品を取り扱っているメーカーもあります。ベッドと異なるメーカーのサイドレールを使用した場合、上図のすき間が大きくなる可能性があります。

シーン 1

設置



ベッドを設置する時に
注意しなければならないことは.....。



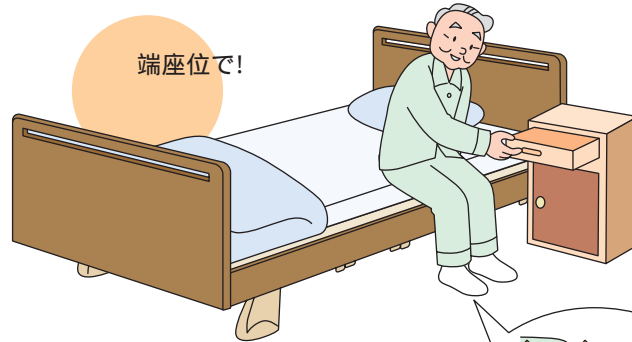
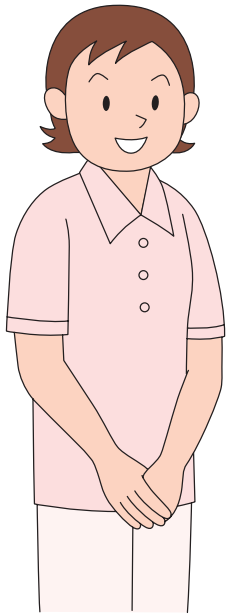
ワンポイントアドバイス

- キャスター付きベッドの場合キャスターは必ず固定するようにしましょう。
- キャスターの向きには注意し、キャスター(ストッパー)がベッドの外側に極力出ないようにしましょう。
- ベッドを設置する際は、まずベッドの高さを一度最低位置から最高位置まで操作し、ベッドが壁や棚などに接触しないか確認しましょう。
- ベッドの下などといった動作範囲には物を置かないようにしましょう。
- 落下の危険性がある物は周囲に置かないようにしましょう。
- 電源コードや手元スイッチの取扱いには細心の注意を払いましょう。
- コンセントの位置も支障がないか確認しましょう。
- 介護を受ける方の症状などを十分考慮した上で、ベッドやマットレスなどの備品を適切に設置しましょう。

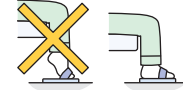
シーン 2

物を取る

ベッドから物を取るときは行動に注意しましょう

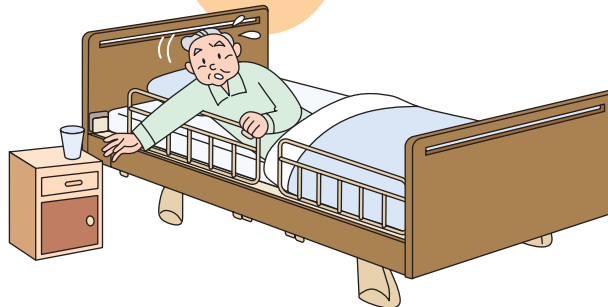


端座位で!



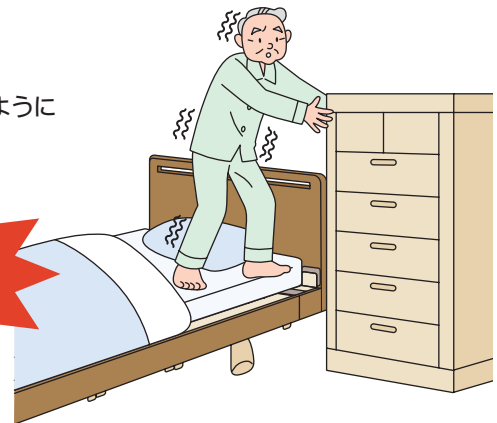
ベッドの高さは介護を受ける方の足(かかと)が必ず床に付く高さにしましょう。

無理な姿勢はとらせない



ベッドの上では立ち上がらないように

危ない!



ワンポイントアドバイス

物を取るときは、必ず安定した姿勢で行ないましょう。

たとえばベッドに腰掛けてタンスから物を取るときは、介護を受ける方の足(かかと)が床につく端座位で行いましょう。

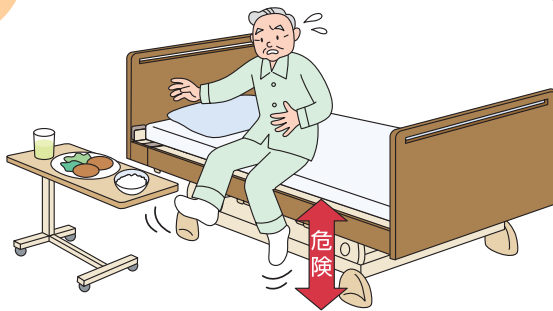
危ないシーンを見かけたら必ず注意をしましょう。

シーン 3

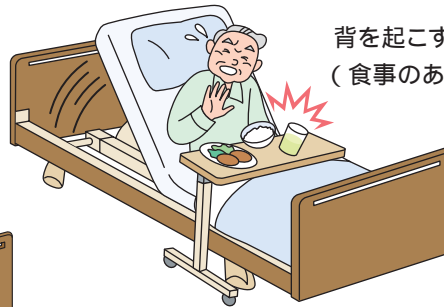
食事

ベッド上で食事をさせる時に
注意しなければいけないことは.....。

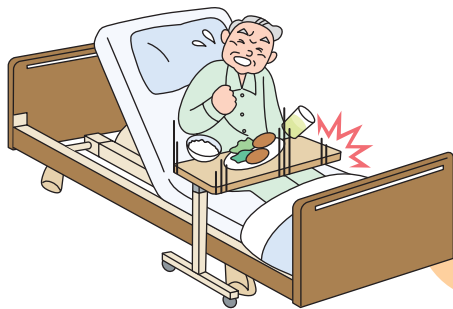
ベッドに腰掛けて食事をする
時のベッドの高さは...大丈夫?



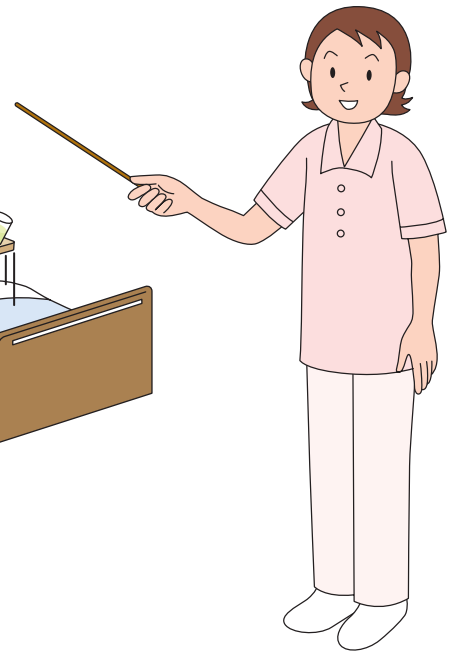
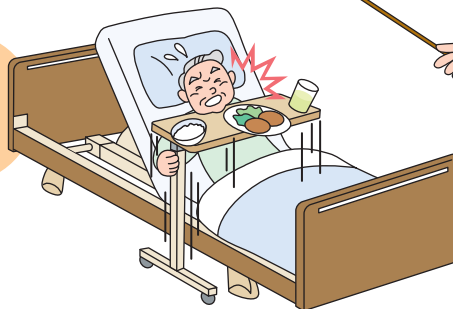
背を起こす時は...大丈夫?
(食事のあとは...大丈夫?)



テーブルの高さを
上げる際は...?



オーバーベッドテーブル等の
固定は...?



ワンポイントアドバイス

食事の際、背を起こす場合は介護を受ける方およびベッド周囲に細心の注意を払い操作を行いましょう。

食事の後はすぐさま食器を片付けて、速やかにらかな姿勢(症状に適した)に戻しましょう。

ベッドに腰掛けて食事をする際には、ベッド高さを介護を受ける方に最も適した位置にし、マットレスのズレ等もあわせて確認しましょう。

オーバーベッドテーブル、ベッドサイドテーブル等を使用する場合は高さ調節の固定が確実にされているかを確認しましょう。

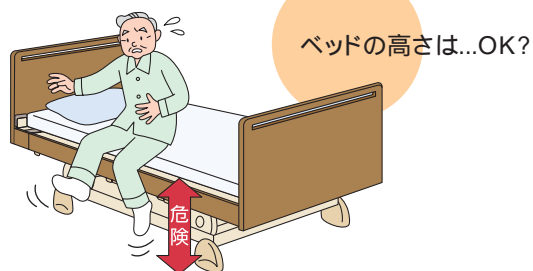
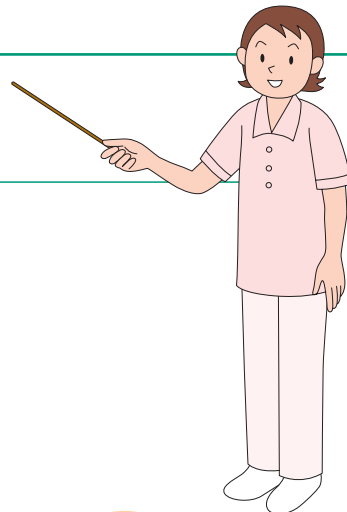
テーブルの高さ調節がガスシリンダー式のものにあっては、上げる際に急上昇することがないように必ず両手で行い、またどちらか一方の手でテーブルを抑えながら操作するようにしましょう。

テーブルの高さは介護を受ける方に最も適した高さに合わせてみましょう。またサイドレールに乗せて使用するタイプのものにあっては、テーブルが安定しているか確認しましょう。

シーン4

乗り降り

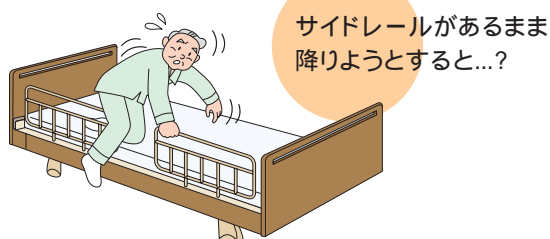
ベッドを使用する環境において
避けては通れないのが乗り降り....。
だから一番危険を伴うもの....？



手すりを使用しないと...？



サイドレールの中から
降りようとする...？



床の状態は...大丈夫？



ワンポイントアドバイス

ベッドへの乗り降りを安全に行っていただくためにも、ベッドの高さは常に最低位置か、もしくは介護を受ける方に適切な高さ(端座位姿勢のとれる)にしておきましょう。

ベッドから降りる際は、なるべく背上げをした状態で行いましょう。(介護される方の身体状況をよく確認した上で)ボードは万一手をついても安全なように固定しましょう。

特に足腰の不安定な方には、手すりのかわりとして手すり(介助バー)を使用しましょう。

サイドレールの中から無理に降りないようにしましょう。

サイドレールを乗り越えて降りることがないようにしましょう。

シーン 5

移 乗

介護を受ける方の転倒・転落事故を防止するため、次のようなことに注意しましょう。

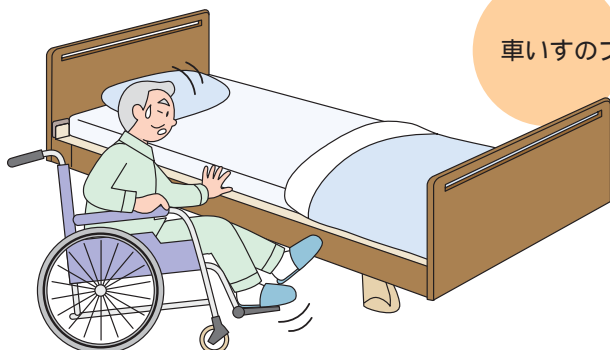
キャスター付きのベッドの場合



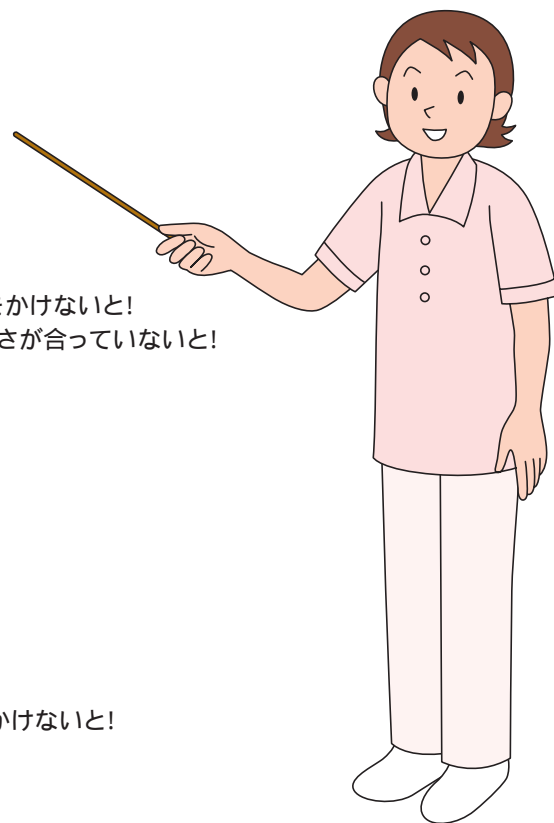
キャスターを固定しないと!



車いすのブレーキをかけないと!
ベッドと車いすの高さが合っていないと!



車いすのブレーキをかけないと!



ワンポイントアドバイス

移乗するときは、ベッド、車椅子、歩行器、手すり等を必ず固定しましょう。

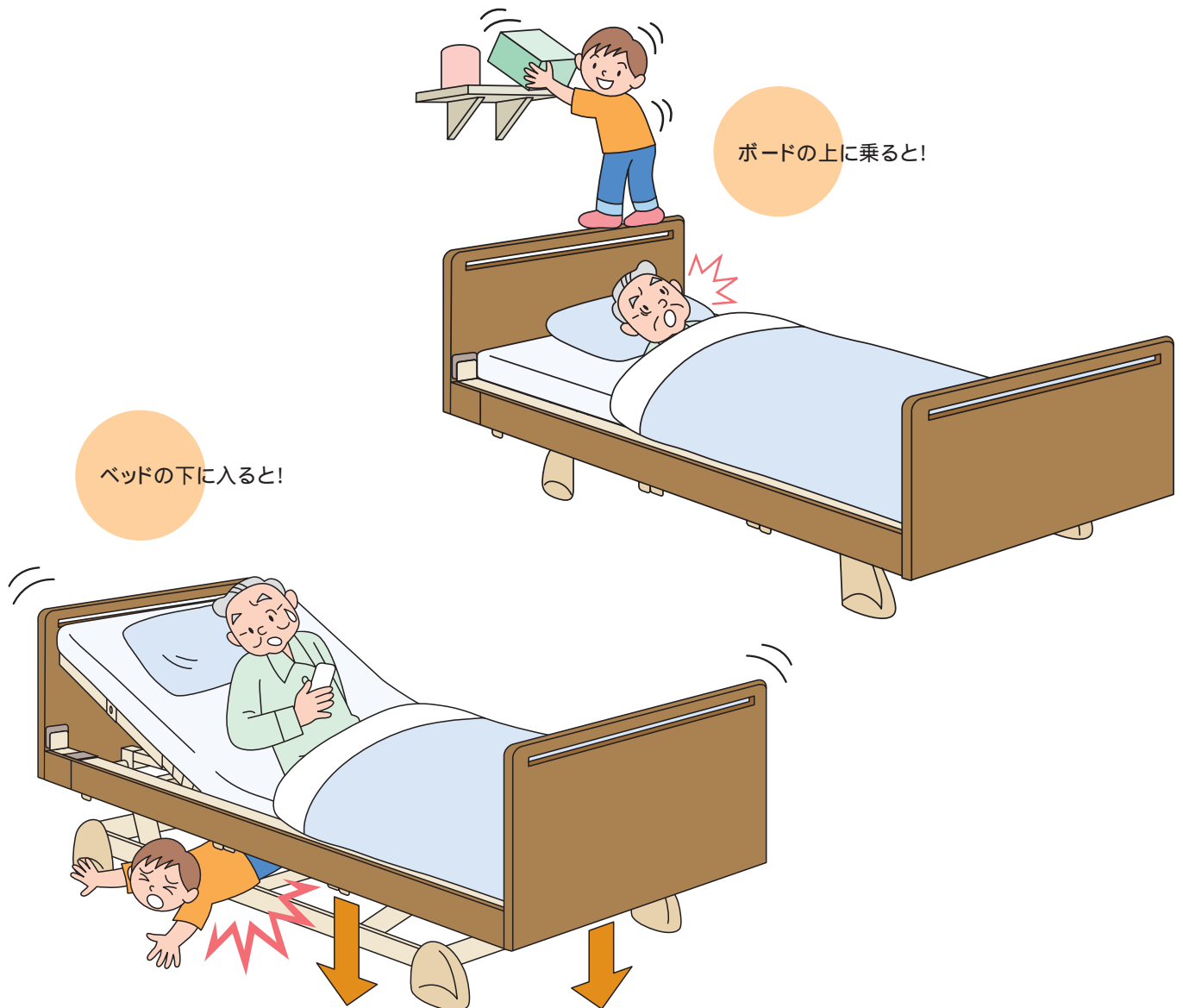
ベッドの高さを調整し、移乗がらくにできるようにしましょう。

注)高さ調整のできないベッドの場合は、より安全確認をしてから移乗しましょう。

シーン 6

お子さまに気をつけて

特に、小さなお子さまがお部屋に入る場合は
気を付けましょう。



ワンポイントアドバイス

小さなお子さまがベッドの下に入り込むことのないように気を付けましょう。

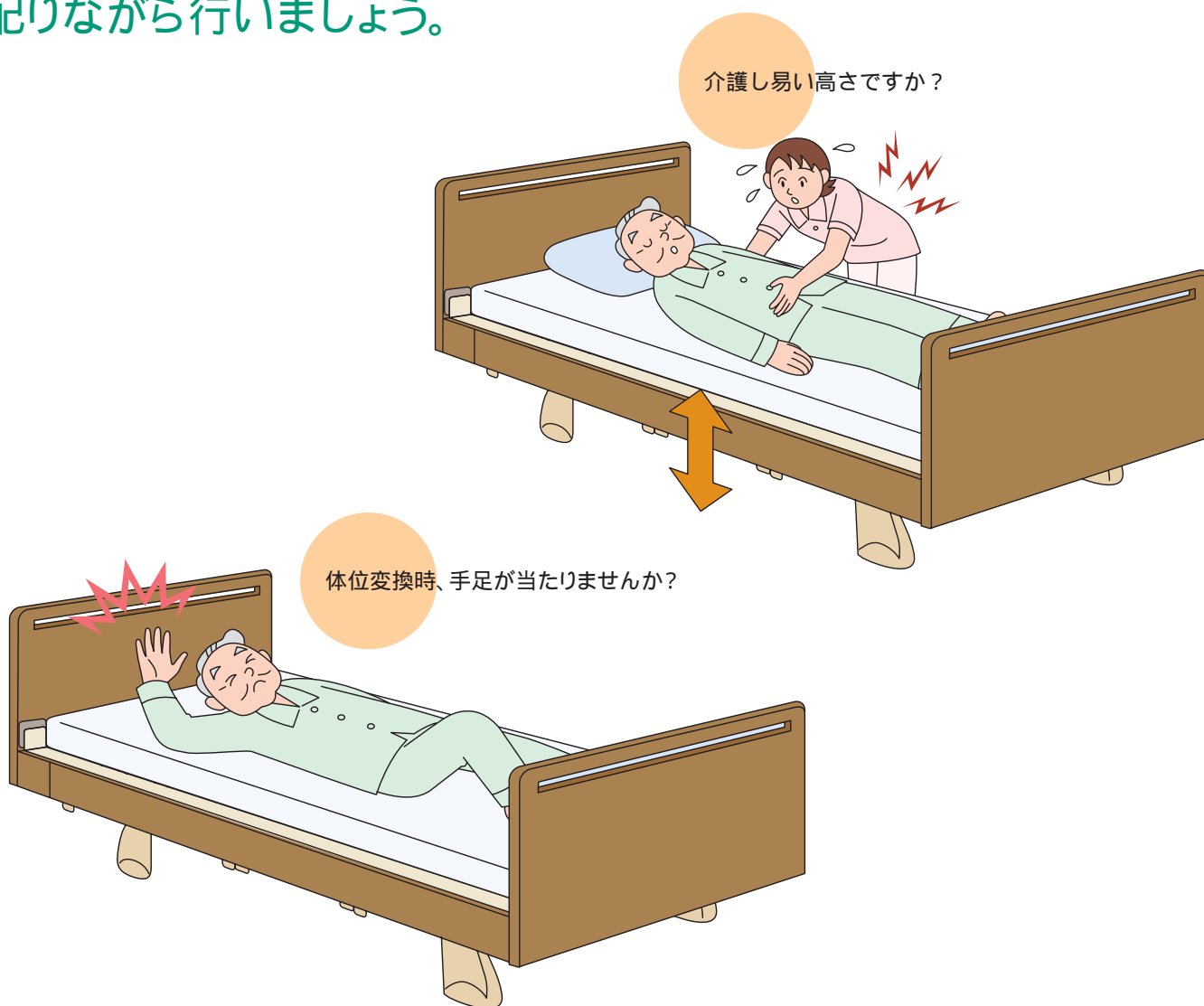
小さなお子さまには操作をさせないようにしましょう。

ヘッドボードやフットボードに腰かけさせないようにしましょう。

シーン7

体位変換・オムツ交換

体位変換・オムツ交換を行う場合は周囲に気を配りながら行いましょう。



ワンポイントアドバイス

介護をする方への負担を減らすために、ベッドの高さを調節できるものであれば、介護しやすい高さに調節しましょう。ベッドを動かす前に、ベッド周辺の安全を確認しましょう。

体位変換・オムツ交換をする体勢を取らせるときには、寝返りする側の腕が下敷きにならないようにしましょう。体位変換をさせたときには、介護を受ける方の頭、手、足などが、ヘッドボード、フットボード、サイドレールに当たらないように注意しましょう。

体位変換・オムツ交換後は介護を受ける方のベッドからの転落を考慮し、ベッドの高さを最低位置にしましょう。体位変換後は介護を受ける方の行動を考えて、手元スイッチの位置を考えるなど、周辺に注意を配りましょう。

シーン 8

整理整頓

日頃から整理整頓を心がけましょう。



ワンポイントアドバイス

背上げ・膝上げを操作したとき布団がずり落ちていると、ベッドから手足が出ていることが確認できず大変危険です。

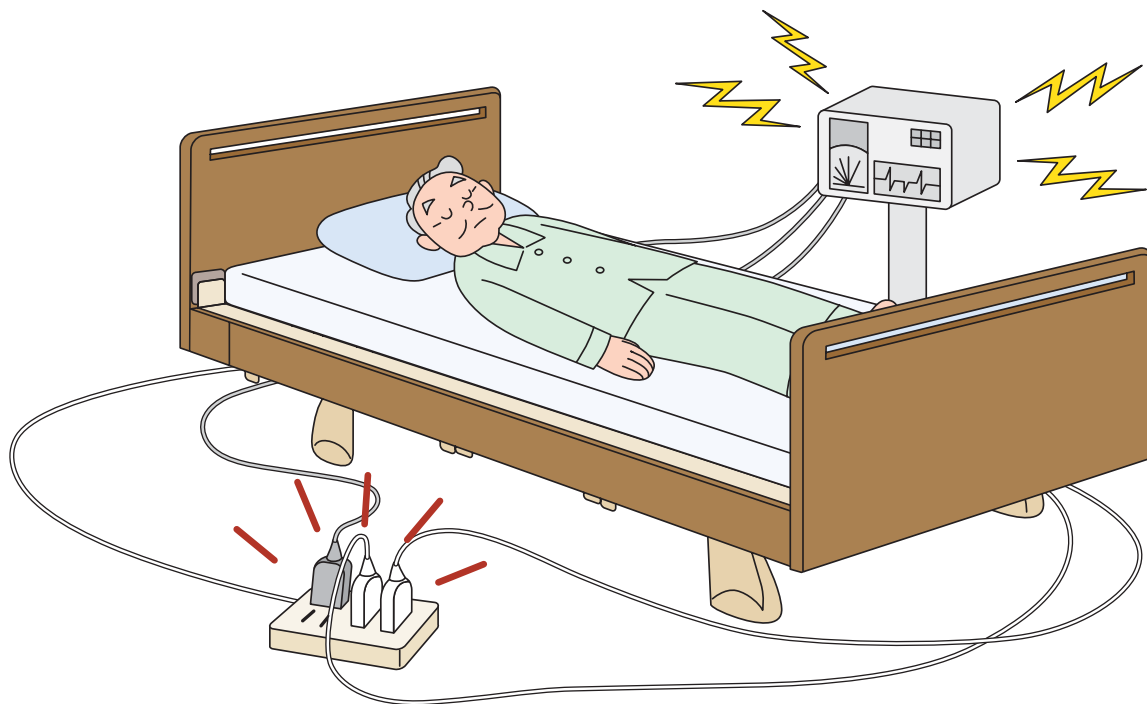
手元スイッチはサイドレールの外側など所定の位置に置くようにしましょう。

シーン 9

電子機器の使用

電動介護ベッドは電気を使います。ですから、電子機器をベッド周辺で使用する場合は、その影響を十分考慮した上でベッドを使用しましょう。特に影響が心配される場合は、確認されるまでベッドの電源を抜くなどして使用してください。

電子治療器を使用する際は電動介護ベッドのプラグをコンセントから抜いてください。



ワンポイントアドバイス

高性能の機器を使用する場合はベッドの電源を抜くなどの対策をしましょう。
タコ足配線は止めましょう。

医療・介護ベッド安全普及協議会について

医療・介護ベッド(以下ベッドという)は、療養環境の快適化に資するとともに看護及び介護労力の省力化に貢献する製品として、医療・高齢者施設で幅広く利用されています。また、昨今では住宅介護分野におきましても、介護保険制度の福祉用具貸与サービスの対象品目に組み入れられたこともあり、自立した生活を支える用具の一つとしての認識が高まり、利用が拡大しつつあります。

利用の拡大にともない、ベッドにも快適性だけでなく安全性に関する関心が高まってまいりました。ベッドを安全にご利用いただく為には、製品の安全性を向上させることに加え、利用者にはその機能や使用方法を十分にご理解いただくことが必要です。

このような背景を踏まえ、医療・介護ベッドの製造に携わる4社が発起人となり、ベッドの安全な使用環境の構築をはかることを目的として、平成14年12月12日に『医療・介護ベッド安全普及協議会』を設立いたしました。

本協議会では製品の安全性向上に取り組むとともに、その正しい使用方法について周知徹底を図り、もって利用者が安心して使用できる環境を構築するために活動しております。

在宅介護における

電動介護ベッドハンドブック

初めて電動介護ベッドを使う方へ
<電動介護ベッドの安全な使い方>

平成18年2月20日発行

本マニュアルは、次のホームページから入手することができます。
医療・介護ベッド安全普及協議会

<http://www.bed-anzen.org>

引用書籍 在宅ケアベッド ハンドブックVol.1.
パラマウントベッド(株) 発行

作成 / 発行
医療・介護ベッド安全普及協議会

〒136-8670 東京都江東区東砂2丁目14番5号

TEL (03)3648-5510

加盟会員

シーホネンス株式会社
パラマウントベッド株式会社
フランスベッド株式会社
マーキスベッド株式会社
株式会社ランダルコーポレーション